

聖徒の道

7

VOL. 11 No. 7



図書案内

教義と聖約 高価なる真珠 モルモン経 教義と聖約 高価なる真珠 モルモン経(新約) 信仰箇条の研究 基督・イエス 末日聖徒イエス・キリスト教会略史 モルモンとは(新版) 総合聖句の手引 メルケゼデク神権、教師と生徒用 神権とあなた 私たちの生きた福音 神の王国 アロン神権者用手引 アロン神権のなかの祭司 回復された神の教会 神と人 家庭に於ける神権の発揚 モルモン経の新研究 日本系図探求要覧 扶助協会手引 求道者教育法 道は開ける	上質革製合本 一一〇〇円 三〇〇円 三〇〇円 三三〇円 三〇〇円 一一〇円 一五〇円 一五〇円 四五〇円 二五〇円 二二〇円 一〇〇円 一八〇円 一〇〇円 二〇〇円 一五〇円 三三〇円 一一五円 一一五円 一二〇円 四五〇円	日曜学校用 モルモン経物語 旧約聖書物語 福音の実践 我等の標準聖典 古代の使徒 教義と聖約の教え 福音の紹介 完成への道 宗教生活 奇しきみわざ(合本) 家督権の祝福 家族の昇栄 シオン山の救い手たち レッスンの手引 M I A 用 M I A の手引 我らは信じる 我らは生きる 我らは奉仕する よりよいあなた 生活の目標 今日の十誡	一五〇円 一五〇円 二〇〇円 二〇〇円 一五〇円 二〇〇円 一七〇円 一〇〇円 一五〇円 一七〇円 一〇〇円 二〇〇円 二〇〇円 二〇〇円 六〇円 二二〇円 二〇〇円 二〇〇円 一五〇円 一七〇円 一五〇円 二五〇円	エンサインローレルの手引 演説が上手になる法 ロールブック M I A 扶助協会 讃美歌及び歌集 末日聖徒讃美歌集(新版) リクリエーション歌集 その他ブックカバーなど モルモン経カバー 教義と聖約カバー 合本カバー 信仰箇条の研究用カバー 聖餐カップ(一箱) 聖餐クロス(一セット) ブレットトレイ ウオータートレイ LDS パッジ	一五〇円 一五〇円 一〇〇円 一〇〇円 一〇〇円 四〇〇円 四〇〇円 二〇〇円 二〇〇円 二〇〇円 二〇〇円 二五〇円 三二〇円 一三七五円 二七五〇円 一〇〇円
---	---	---	---	--	--



-----もくじ-----聖徒の道-----7月号-----

＜予言者のことば＞……永遠の価値……デビッド・O・マッケイ… 1

伝道部長会メッセージ …………… 4

第2回神殿訪問計画を終えて …………… 9

＜系図＞……太平洋上のイスラエル人 …………… 24

＜MIAリーダー＞ …………… 30

＜扶助協会レッスン＞ …………… 32

＜家族のタテキスト＞ …………… 42

△予言者のことば▽

永遠の価値

デビッド・O・マッケイ大管長



男を見せなさい。
人類が真実な思いを貯えて行くことの価値を始めて教えられてから数千年を経て来ました。

その心に思ふごとくその人となりも亦しかればなり。(訳者註、文語が適訳に付文語を用いました)とはしん言を書いた賢者の時代に宣言されたものであります。

同様に神は訴えております。

わが子よ、あなたの心をわたしに与えあなたの目をわたしの道に注げ。

キリストが生れて数年して亡くなった最も能弁家であつたユダヤ教のヒンルは次の貴重な言葉の内にその考えを表現しました。

もし男が居なかつたら、あなた自身、男を見せなさい。

偉大な教師によって、正しい思いの必要以上に不断に強調された人生の原則はありません。彼にとっては人は外見によるものでなくまたその言葉によって公言されたものでもなく、すべての場合に人の思うことが人となりを決めるのであります。

人の自分自身に対する義務同様に隣人に対する義務に就てのキリストの教えはすべての場合に、思いが人の幸福への権利か罪のための非難を決定しているという真理を以て普及しております。

予言者ジョセフ・スミスへの啓示で主はこの原則に従うことがイエス・キリス

トの福音を説きに行く十二弟子の第一の務めであると強調されております。

。されど、汝の心をわが前に潔くせよ。それよりすべての世の国々に出で行き、いまだわが福音を受けざる一切の生くる者にこれを説くべし。

(教義と聖約一一・二八)

この啓示が特に十二使徒会長のトマス・B・マーシュに与えられたことは確かですが、それはまた同様に宣教師活動に関するものであります。私たちはもう長い間、すべての会員は宣教師であると言って来ました。そしてその心が真実で、その思いが高貴な者だけが他人をして、この高い理想を達成しようと求めるように影響を及ぼすことができるのであります。

この基本的な教義、そして栄えある満たされた気持、自己満足、平和、人生をして価値ある生となすすべてのものは、各々個人の心の中にその根源を有しているのであります。その同じ根源から、不安、擾乱、悲惨など破壊と死亡に導くすべてのものが湧いて出るのです。それはあまりにも顧みられない人生の教訓であります。人は自分自身の考えよりも、人がどのように思っているかと言う考えにより多く影響され、動かされている、あまりにも多くの人が罪が発見されない限り無事に通るものとして罪に耽ってよいと勝手に考えています。彼らは不正直な行為はもし秘密にするなら犯してもよい

としております。

単に一例を取上げますと昔の子供たちは納屋や藪のかげで煙草を吸っていました。今日、今日の少年たちもかくれて同じ事を為し、捕えられさえないければよいのだと盲目的に考えているのです。

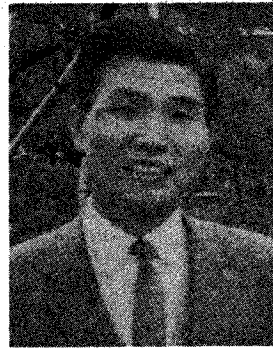
このかくれた行為は発見されようと思えないとに拘わらず、それを犯した者は罪と不謹慎の罰を受けるのであります。行動の前提である思いがその性格に拭い消すことのできない印象を残すのであります。犯人は、こんなこと何でもないんだ、と言ってその良心に上薬をぬろうとするけれども、心の底にそれは刻み込まれて、彼の性格の刻印として裁きの日に彼に立向うであります。誰もその思いを、かくすことはできず、その必然的な結果から逃れることはできません。

末日聖徒イエス・キリスト教会のすべての会員が教会の中でまた世の中で負っている指導者たる責任に堪がみて私たちは考えねばならないときでなくともときどき立止って自分自身を振り返って、私たちの思いを確める方がよいようです。その心に思ふごとくその人となりも亦しかればなり。(しん言二三・七)

またエマーソンが言ったように

。あなたがそのような人だから、その声が雷鳴のように私の耳に響いても、私はあなたの言うことを聞くことができない。

神殿訪問を終えて



渡 辺 驥

(第一副伝道部長)

再び恵まれて主の宮居を訪問し、大いなる感謝と感激と感動とに充たされております。たしかに主は生き給うて「主を畏れ、終りまで義しかつ真実に主に仕うる者に誉を与うるを喜ぶ」お方であります。

「聞け汝ら諸々の天よ、地よ耳を傾けよ。喜べ、そこに住む者たちよ。主は神にして、主の他に救い主なければなり。主の智慧は偉大にして、そのなしたもうところは驚嘆すべく、その御業の終は誰も知る者なし。その企図は敗ることなく、またその御手を止め得る者絶えてなし。永遠より永遠に主は同じにして、その齢は尽くることなし。主はかくの如く言う。主なるわれはわれを畏る者に恩恵と憐れみとを与え、終りまで義しかつ真実にわれに仕うる者に誉を与うるを喜ぶ者なり。彼らの得る報いは大きく、その栄は永遠なるべし。われは彼ら

の中で私は以下の聖句の実現が間近いことをひしひしと感じました。

「時すでに近づけり。世の熟する日將に近づけり。その時、すべてたかぶる者と悪をおこなう者は塵の如くにならん。而して邪惡のこの世になからんためわれこれを焼きすてん。と万群の主は言う。それは時すでに近づき、わが使徒たちの語りし所は成就せざるべからざればなり。

また彼らの言いしところを、われその如くなせばなり。また、われ能力と大いなる栄光とを以て天の万群と共に天より現われ、人々と共に正義を以って一千年の間この世に留まり恵しき人々はこれに耐えざればなり。また誠にまことにわれ汝らに告ぐ、エルサレムに於てわれと共に導きと恵みを施す業に従いたる十二人の使徒たち、われ火の柱にて来る時きわが右の方に坐し、正義の衣を着け、われと同じく栄光の冠を頂き、もってイスラエルの全家を、すなわちわれを愛しわが誠命を業りし者にほかならぬ者を審かんこと父の御旨により固き神の命として出でたり。誠にシナイの山に於けるがごとく、ラッパの音は高くかつ長く鳴り響きて全世界は震動し、すなわちわれに在りて死にたる者たちは大義の冠を頂かんため、われと同じく正義の衣を着けんため、またわれと共におりてわれら一つにならんため出で来らん。されど見よ、われ汝らに告ぐ。この大いなる日の来る前に日は暗くなり、月は血と変り、星は天より落ちん。而して上には天に、下には地に、更に大いなる前兆あるべし。また多くの人々のうちに泣き悲しむことあらん。また烈しき雹遣わされてために地の収獲は損われん。また世に惡事あるが故に、恵しき人々の上にわれ応報をなさん。それは彼ら何としても悔い改めざるが故なり。それは、わが怒りのさかずき満ち充ちたる故なり見よ、もし彼らが言を聞かざればわが血彼らを潔めざらん。これを以てわれ主なる神、また地の面にあぶを遣わさん。これらは地に住める人々にとりつきてその肉を食い、そこにうじを生ぜしめん。而して人々の舌はこわばり、われに反して声を挙ぐるること能わず、肉は骨より離れ眼は落ちくぼむ。而して、森の獣と空の鳥彼らを食り食わん。また全地の中に浮れ女なる、かの大きいなるにくむべき教会はこれらのことに就きて語りし、予言者エゼキエルの口によりて言われし如く、猛火によりて焼き払われん。この予言はいまだ現われずといえども、このことわれ今生くるが如く違わず来るべし。およそ、にくむべき惡は世を支配すべからざる故なり。」

(教義と聖約二十九章九・二十一篇)

「その日戦につきて聞かん、また戦のうわきにつきて聞かん。全世界は揺れ動き、人々は怖れおののきて言わん。キリストは世の終末までこの世に来ることを延ばされたり、と。人々の愛は冷やかになり、不法は満つべし。異邦人のとき始

まゐるに及び暗きに坐する者の中に光輝や
き出でん、この光はわが完全なる福音な
りとす。されど彼らはその光を受ふ入れ
ず。そは、彼ら光を認めざれば人の教え
の故によりてわれに心を背くればなり。
而して、その時代に異邦人の時満つるべ
し。このときに当り、その世に立ちて而
も地に溢る徴しめを見終りて後、始め
て過ぎ行く人々あるべし。世を滅ぼすべ
き疫病、地を覆うべければなり。されど
わが弟子たちは、聖地に立ちて動くこと
なかるべし。されど悪しき人々の中には、
声を挙げて神をのろい死ぬる者たち
あらん。また地震も至る所に起り多くの
荒廢は来らん。されどなお人々はわれに
向いて心を頑固にし、互いに剣を執りて
殺し合うべし」と。さて主なるわれ、こ
れらのことを弟子たちに語りしとき彼ら
こころを悩ませり。さればわれ彼らに言
えり。汝らこころを悩ますことなかれ。
そはすべてこれらのこと起るときは、汝
らになせる約束の成就するを汝らの知ら
んが故なり」と。この光の輝き初むる
ときに起ることは、汝らに示さんとする
一つのたとえの如くなるべし。汝ら、いち
じくの木を眺めてこれを見るに汝らの眼
を以てす。而して、若芽萌え出でてその
葉なお柔らかなるや夏すでに近しと汝
らは言う。人々これらのこと起るを見る
その日に於て、誠にかくの如くならん。
そのとき人々すでに追れるを知るべし。
およそそれを畏る者は来るべき主の大

いなる日、すなわち人の子の来る徴を待
ち望みつつあらん。而して、人々種々の
徴と驚異とを見ん。これらの徴は仰げば
天にあり、伏して見れば地に示さるべ
ければなり。人々は血と火と烟霧とを見
ん。主の日来る前、日輪は暗くなり、月
は血と変り、諸々の星は天より落つるべ
し。而して、残れる人々はこの地に集め
らる。そのとき彼らわれを求めん、見
よ、われ来らん。而して彼ら、われ能力
と大いなる栄光の衣を着けて天の雲に乗
り、すべての聖き天使らと共に来るを見
ん。而して、およそわれを油断なく待た
ざる者は断ち切られん。されど主の腕の
下らんとする前、まず一人の天使ラッパ
を鳴り響かせん。しかるときは、眼りい
たりし聖徒ら雲の中にてわれと過わんた
めに出で来らん。この故に、汝ら穩かに
眠りいたらば幸福なり。そは汝ら今やわ
れを見てわがあるを知る如く、汝らはわ
れに來りて汝らの身も雲も生き、汝らの
驢い完うせらるべければなり。而して聖
徒らは地の四方より出で来るなり。それ
より主の腕は諸々の国民に下らん。それ
よりして主、その足をこの山の上に置け
ば山は二つに裂け、地はかなたこなたに
揺れ動き、諸々の天もまた震い動かん。
而して、主声を発すればその声地の極ま
でも響きわたたりて、世にある諸々の国民
嘆き悲しみ、これまでわらいたる者もそ
の愚を覺らん。かくて悔る者は災を蒙
り、嘲る者は焼きつくさるべし。また悪

を待ち構えし者は叩き伐られて火に投げ
込まれん。それよりユダヤ人はわれを仰
ぎ見て問わん「汝の手と足にある傷は何
ぞや」と。そのとき、彼らはわれの主な
ることを知らん。そはわれ彼らに向いて
「この傷は、わが友の家にありて得たる
傷なり。われは挙げられたる者なり。十
字架につけられたるイエスなり。われ、
はすなわち神の子なり」と言えはなり。
彼らこれを聞きて、そのためしたる悪事
の故に泣き悲しみ、またそれより己れら
の王を迫害したる故に嘆かん。それより
して、異教を奉ずる諸々の民は驢わるべ
し。およそ律法を知らざる者は第一回の
復活に与るべく、こは彼らにとりてかな
りの良きことなり。サタンは縛られて、
人の子らのところの中に入るべきところ
を与えられざらん。わが栄光もて来るそ
の日に、十人の処女につきてわが語りし
たとえは成就すべし。賢くして真理を受
け入れ聖霊の導きに従ひ騙されざりし者
は、誠にわれ汝らに告ぐ、彼らは伐られ
て火に投げ入れらるることなくその日に
堪うるべし。地はゆずりとして彼らに与
えられ、彼らは殖え満ちて強くなり、そ
の子孫らは罪を犯すことなく育ちて救い
に入らん。主は彼らの中に在りてその栄
光は彼らの上に輝き、主は彼らの王にし
て立法者たるべし。（教義と聖約四十五
章二十六・五十九節）それ故私たちは、
末日聖徒としてベンジャミン王の言葉の
ように、主の聖約をよく憶え、終りまで

義しく主に仕うる必要があると思いま
す。「ごらん、よく言っておく。私が一
生の間お前たちのために務めたと言った
のは、これを自慢したいと思って言った
のではない。私が務めたのはただ神のた
めに務めただけである。ごらん、私がこ
れらのことを言うのはお前たちに知識を
与えるためであつて、またお前たちが同
胞のために務めるのは、ただお前たちの
神のために務めるのであることを悟らせ
るためである。ごらん、お前たちは私の
ことをお前たちの王であると言ふ。もし
も。お前たちの王である私でさえも眞実
はげんでお前たちのために務めているな
らば、ましてお前たちはお互いのために
一生けんめいに務めなくてはならないで
はないか。またもしもお前たちの王と呼
ばれてその生涯をお前たちのためにつく
し、今になるまで神に仕えている私でさ
えもお前たちから感謝を受けるぬうちが
あるとするならば、お前たちはどのよう
にお前たちの天の王に感謝を捧ぐべきで
あるうか。私の兄弟たちよ、よく言つて
おく、お前たちがたとえ全身全霊の力を
つくして感謝と讃差とを捧げ、お前たち
を造りお前たちを助けてお前たちを養
い、お前たちを守りお前たちを喜ばせお
前たちが互いに平和に暮すことを許した
もうた神をたたえても、また、たとえ始
めからお前たちを造つてこれに息を与
え、以て毎日毎日お前たちを生かし、生
きて動き意志のままに行なうことを許

し、時々刻々お前たちを支えておりたもうお方に、全身全霊の力をつくして仕えても、お前たちはそれでもまだ益にならない僕である。(モーサヤ書二章十六・二十一節)

「神を信ぜよ、神がましますことと、神が天地の間の万物を造りたもうたことと、天でも地でも全智全能であることと信ぜよ。また人間は主の悟りたもうことをことごとくは悟れないことを信ぜよ。重ねて言う。お前たちはその罪を悔い改めその罪を捨てて神の前にへりくだらなくてはならないことを信じ、神がお前たちを赦したもうように真心から祈れ。もしもこれらをみな信するならば謹んで実行せよ。私はすでに言ったけれども、今一度これをお前たちに言おう。お前たちがもしも神の栄光を知り、あるいは神の恵みを知り、神の愛を味かい、自分の心をこれほどまでに喜ばせる罪の赦しを受

けているならば、私はお前たちが常々神の偉大なことと、自分が役立たずで何のねうちもないことと、恩を受けるねうちもない自分に神が恵み深く辛抱強く、ましますことを忘れずに思い起して低くへりくだり、毎日毎日主の御名によって祈り、天使の口から示された将来のことを確く信じて変らないことを望む。もしもお前たちの行ないがこのようであるならば、お前たちはいいつも喜び、神の愛に浴し、いつも罪の赦しを保ち、お前たちを造りたもうたお方の栄光、またはすべて正しく真実であることをいよいよ深く知るようになる。(モーサヤ書四章九・十二節)

願わくば、主の祝福と導きが常は私もの上に豊かにあって、終りまでよく主に仕え、主の御許に共々帰ることができま

△伝道部長会メッセージ▽

愛に包まれた十日間



田中健治

(第二副伝道部長)

その夜が来ました。百二十五名の兄弟姉妹と十七名の子供や赤坊たちを一杯に乗せた日本航空七二便ダグラスDCバンダイ号は午後九時二十分羽田空港の滑走路を東に向って矢のように滑り始めました。

う。三台のバスと、荷物を満載したトラックは多くの会員たちの自動車と抜きつ拘かれつ一路ライエに向う。途中のドライブインで小休止。アイスやソフトドリンクに恐る恐るドルを使う。真昼の太陽が照りつけるのになんとさわやかな夏であることか。

このプログラムに注ぎ込んだ期待と苦心と努力とお互の間の愛の結びつきが手伝って数秒の滑走でふわりと浮き上がりました。大声を上げて送ってくださいた東京の兄弟姉妹たち、それぞれの支部で駅頭で祝って下さった方々ありがとうございました。朝の方角に向う時速千キロは日本時間の午前一時には黎明を迎えることになり、機上の朝食のおいしかったこと。予定より三十分早くハワイは見えて、窓辺にシャッターの音しきり。空港での大歓迎。フラとレイウルトラマリンの空の下での交歓。アンドラス、アンダーセン両前伝道部長の厚い胸に抱かれ、ブルックス神殿長の温容に接して胸がふる

町や海辺の椰子を眺めながら車中で昼寝をすると神殿が遠くに見えて皆のざわめきに起される。チャーチカレッジのドミトリイ着。部屋割、片付けをし、お弁当とジュースとオレンジを頂き飛ぶようなトラックに乗せてもらって神殿着。オリエンテーションレッスンを受ける。ガリーメントのサイズ決定し夕食。あふれるような栄養を身に入れて、ポリネシアンカルチュアルセンターの特別席へ無料で(通常は一人五弗)着席。色とりどりの色彩、火と噴水とリズムと歌と踊りの大交響楽へ大拍手、明日への打合せを終わって十時三十分就寝。

第一夜は明ける。朝五時スコールの去った朝の大気の清涼さの中にAグループから神殿に向う。Bグループは神殿についての説明と彫刻の細部まで宣教師夫婦のガイドの方から受ける。最初の自身のエンダウメント(第二回の人は身代り)を受ける。終りの日までこれらの誓約を守り通すならば、神の王権を約束されている子供たちの熱心さ忠実さをみそなはし給えと切に胸の内に思う。第二夜は静かに暮れる。全ての人の寝静まった大学の構内を明日のシーリング(永遠の結婚)と死者の身代りバプテスマの予定時間表を掲示するために一人ある。まるで手が届きそうな空に降るような星である。

第三日は輝き明ける。今日のカップルたちの期待に満ちた顔々々。両親につれてはしゃぐ子供たち。バプテスマ担当の人は六時十五分に神殿に入る。朝日は正面から神殿を照らし窓の反射が一直線にカメラに入射する。見事な露のきらめきが虹となって、草木の葉先をころがり落ち長く待った二百五十一名の霊たちが、自分たちの身代りバプテスマを見るために葉先をかすめて、我々の前を行くかのようである。儀式を終った人々はカップルで組んで思い思いに写真撮ったり芝生に坐って語りあったりほほえましい。夜六時十五分より英語セッションに参加生きたセッションはまた靈感に満ちた眼の開かれる思いがする。やがて日本に

神殿のできる日、我々は自分の信仰と努力と愛によってその責任を果すのだなと、注目する。夕あり朝ありき。

第四日、子供や赤坊たちの努力はそれを交替で世話して下さる人々の苦心と共に賞讃に値する。一度も母と離れたことのない幼児が半日母と離れ泣きつかれて寝込むのを見るといじらしくて涙が出る。将来のために子供の育て方について一言希望を述べるとするならば、人見知りをしない子に、(第三回に子供さんをお連れになるならば)育てて頂ければ幸いと思う。日坂兄弟姉妹の三人の子供さんは模範的であった。身代りエンダウメントもすっかり身につき今日は先祖とのシーリングもある。何度か儀式的の証人として立合う機会が与えられ、感激的な経験を重ねる。世界中でもっとも嬉し涙の流される場所はどこか、それは神殿の中である。このような充実した幸福感を味はずに幸福や喜びの何であるかを論じてはおこがましいとさえ思う。夕方五時皆はホームイブニングを過すため各家庭に引取られて行く。最後に前年もお世話になったローランドさんの家に連れて行かれる。そしてワードのパーティに出る。ハウラの海岸の公園のような庭のごちそうとダンスと歌の交歓阿波おどりもやんやのかっさいを受ける。大学まで車で送って頂く途中神殿の夜景に溜息が皆の口から洩れて車が停車する。その活きた清浄さは我々の魂を昇来へふるい立たせ

る。予定表を貼り出しに構内を歩きつづ星を見上げて昨夜家族に書き送ったハガキの言葉思い出す。『今日永遠の結婚の証人となりました。神殿長さんの日本語の儀式は心にしみわたり全部の人が感泣していました。いつでもあと一人の人のことを考えています。腰の痛みも十一人のバプテスマをできる程治りました。今度はきっと皆で来ようと降るような星を見上げて思っています。』休息の夜は一瞬で、五日目の六月九日が明ける。夜は英語のセッションにも出る。今日も証人として忙しくおひるは抜きだが満ち足りている。

ベッドに倒れ込んで土曜の朝が来る。この日は兄弟たちだけによる神権者セッションを英語と一部日本語で行なう。これは日本語よりセッションが早く進むこととすでに各人が四六セッションを通り意味が良く分って来ているためである。姉妹たちの一部が続いて現地の方との合同英語セッションに入る。初めの日ブルックス神殿長さんは日本語で歌はれる。苦を恐るな聖徒よを聞かれて涙を流して喜ばれた。ハワイ語や英語やサモアの言葉で歌はれてもどの国語で歌はれても同一の靈感を受けることは、まことに主の公平な愛を示しているのではないかと。そしてしばしば我々の大きな口を開けて歌う熱心な讃美歌を所望された。PM・三〇大学の正面に集った多勢の現地の方々の車に引きとられてステッキの

福祉農場から提供されたバナナを腹一杯つめこんだ兄弟姉妹たちがニコニコしながら消えて行く。これからホノルルの見物やパーティに招かれ暖かいもてなしを受けて家庭に泊めて頂き明日の安息日を最寄のワード部で過すためである。全部の方が引取られたのを見届けて私たちが(北支部の丹羽兄弟姉妹、小松姉妹、名古屋の松浦姉妹と田中)はアンドラス部長さんの冷房車でフキラウ(地曳き網)パイナップルセンター、ワイキキの見物、ショッピングをすませて(私はタバナクルコーラスの新譜のレコードをかった)ホノルルを眼下に見下ろす山の頂きに登る折からの夕陽にダイヤモンドヘッドまでの見晴しは素晴らしい。七〇〇ホノルルステッキセンター着。年に一度のワードのパーティと小松部長さん御一家の歓迎と(前に部長さんはこのワードの監督だった)我々の慰労を兼ねてのパーティは豪華なプログラムと御馳走で始まった。そこにもここにも顔見知りのリタ・ミッシェンナリーや、前回の旧交を温めて話題に花が咲き、ハワイアンの歌が流れフラのリズムに合せて正調のダンスが次々と披露される。馳れない我々をステージに引っぱり上げて手と腰の動かし方についても教授して下さる。特に驚かされたのはポリネシアの大きな刀を振廻しての剣舞だった。戦いへ臨む戦士たちを鼓舞するもので今にも手元が狂って怪我するのではないか、汗で手からすべってあ

の良く切れる（バナナの葉等をスパスバ切って見せて真剣であることを見せてある）刀がとんで来たらどっちに逃げようかと内心びくびくする程だった。別れの歌を皆で歌って会は終る。夜十時半二年振りにアンドラス姉妹にお会いする。二日間大変親切にして下さり、くれぐれも日本の皆さんによりしくと繰返しておられた。その夜はハワイに来て初めて責任から解放され我家に寝る如く、六時間もぐっすり眠った。鳥のさえずりに快よく眼をさまし安眠日は明ける。立派に大きなられた子供さんたちと共に朝食をおいしく頂く。神権会と日曜学校にカネオハワードに行く。古い建物ではあるが清潔に保たれている。整然として秩序正しいプログラムは言葉が良く分らなくても靈感に満ちている。近々建築にかかるのでこの次のときには立派なステーキセンターとなっているに違いない。すぐ裏の五町歩ばかりがステーキ福祉農場で見上げられるようなバナナ農場となっている。一度家へ戻り休み三時から聖餐会である。先週神権を受けたチャールズ兄弟も誇らしげに立派にパスをする。

彼のはじめて配るパンを受けた父親のアンドラス部長さんは思はず嬉し涙をこぼされたとのこと。夕方の島の反対側のカイルアワードのファイアサイドに行き証詞をする。一時間アンドラス部長の通訳で日本での主の経綸の一端をお伝えする。大変喜んで下さり質問が集中する。

建築資金の割当てはどうするか等と切実なものもある。アンドラス部長さんは日本語をちつとも忘れない。そして大きな声でよく笑はれる。御自分の仕事を完全に休んで奉仕の毎日である。

明ければ六月十二日夢のように過ぎた神殿の儀式の最後である。これから二年間忘れないように眼を皿のように喰付くように真険になっている人々。昼過ぎ記念撮影をすませ二時半より六時半まで八三名の方々が証詞して下さった証詞会に入る。小松部長おとくいの三十三番を唱い最初の森村兄弟は壇上に立って台に手をつき絶句、涙があふれて言葉にならない。我々は今スタートを切る。正しい主の望まれる生活をこの地上でなすために。今眼の開かれて誓った全てのことをなすことができるようにと皆の感謝と決心のあかしは続く。夜は大学ライエのステーキあけてのアロハ晚餐、目的を完全に果し得た安堵があたりを明るくし、厚色のレイやアロハ、ムウムウが、行きかいたながらパラダイスのよう。やがて宴は終りハワイの最後の夜の星が見守る中で感謝の祈りをささげる。掃除も、支払も、何もかもすっかり終つてあとは朝を待つのみ。滞在費は一人僅かに十四\$。誰も信じられないような好意に包まれた日々。むせるようなレイの花の香に思いだす神殿内の時間の記憶と魂の高揚を乗せてジェット機は懐しい故国に向けて進む。羽田到着三十分前閉会の歌はう

たわれ祈が捧げられる。

『わたしは新しいいましめをあなたがたに与える。互に愛し合いなさい。わたしがあなたがたを愛したように、あなたがたも互に愛し合いなさい。互に愛し合うならばそれによってあなたがたがわたしの弟子であることをすべての者が認めるであろう。』千九百六十九年第三回のようにどんなことがあっても参加したい。そしてまだ行かれていない兄弟姉妹の方々と共に類まれなる愛の証明を受けたいものである。羽田のゲートの上から叫ぶ多くの兄弟姉妹の声の間に私は娘の叫ぶ声をきいた。『パパおかえりなさい。』この一文は神殿長さんアンドラス、アンダーセン、両前伝道部長さんをはじめとする多勢の方々への感謝のために短かく記したものです。真の感謝は私たちの神様へと兄弟たちへの愛の充実によってのみ表すことのできるものである。最後にこのプログラムのために心労をつくして下さった小松伝道部長御夫妻いつも支へて下さった渡辺副伝道部長に、また参加すべく信仰と努力の結実を示して下さい兄弟姉妹の方々に感謝いたします。ありがとうございます。

ハワイ感謝を味わって

— ハワイ神殿訪問を終えて —



ホノルル空港に着いた一行



東京中央支部に集まった阿部家族



出発から到着まで

ハワイポリネシアカルチャーセンター





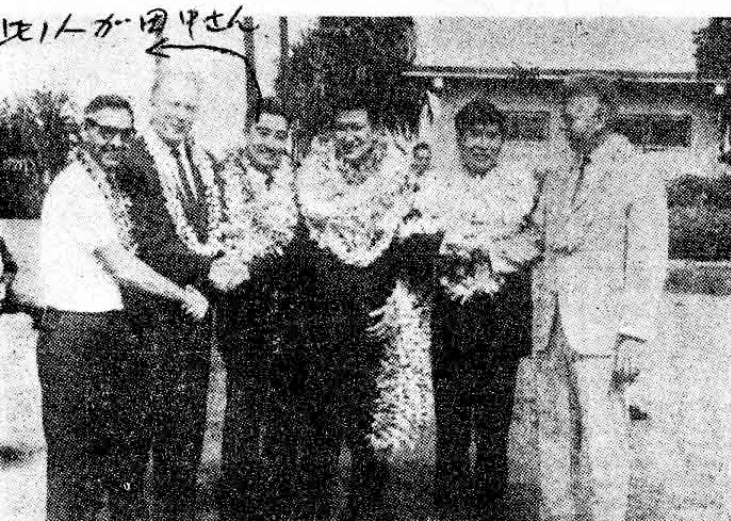
三人の子供を連れた日坂家族



ライエに向うバスの中で



レイを首にかけて記念撮影



東京から本五日前朝九時十五分着の日航機七二便貸切り機でモルモン教徒一三〇名が北部極東教会の小松義雄会長に引率されて、教徒として一生に一度は必ず参拝を念願とするライエのモルモン聖堂に参拝のため来布した。

写真(上) 参拝団の幹部左からドウエン・アン・ダイソン(前日本モルモン教会々長兼外国人学生顧問)ハリー・ブルツクス(ライエ聖堂会長)連辺員(日本モルモン教会第一副会長)、小松義雄会長、田中健治(日本教会第二副会長)とポール・アンドルス(元日本モルモン教会会長、ホノルル州高等会議員)

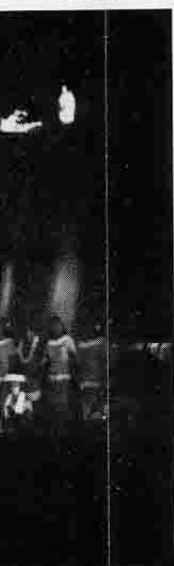
モルモン宗参拝団来布

けさ百三十人が日航貸切機で

一行の到着を報道する現地邦字新聞



ロッジ正面玄関



ヨーでの見学



ステーキセンターでの歓迎パーティー



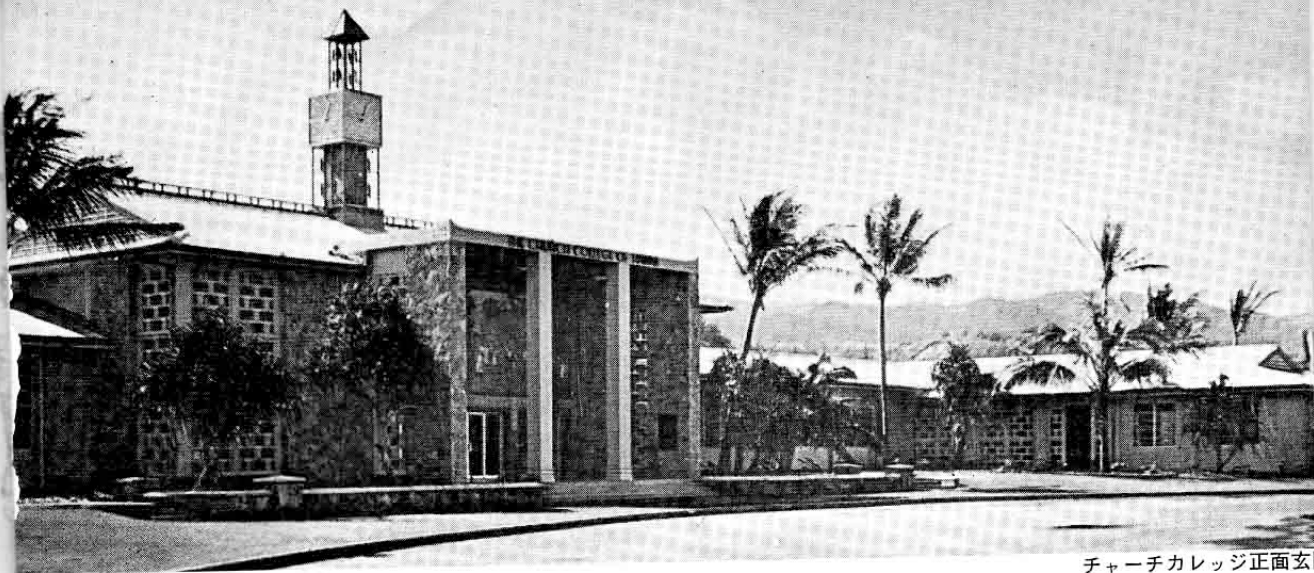
小松伝道部長夫妻と奈良姉妹



お別れのパーティー(立っているのはアンドラス兄弟)その左2人目神殿長

ドライブインで涼をとる日坂姉妹たち





チャーチカレッジ正面玄関

歓迎の嵐に
迎えられて



ホリネシアセンターショーでの見

遠くに見える四角な建物が宿舎になったドミトリー



ステーキセンターの大きな木



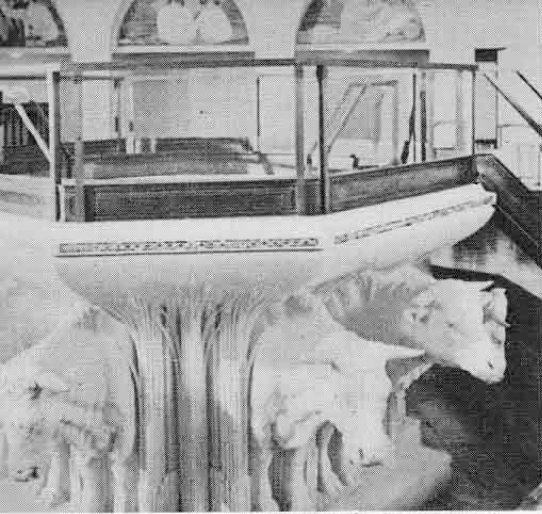


神殿の前でカンカン照りの太陽をまともに受けて記念撮影 中央 伝道部長夫妻のとなりがブルックス神殿長



神殿の外部の説明を聞く





死者のバプテスマフонт



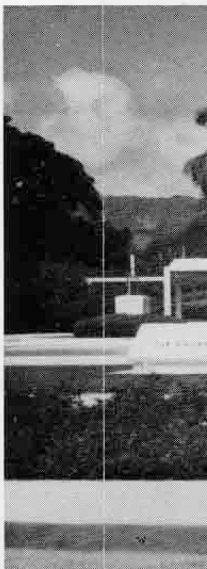
ハワイ神殿の上空から



神

神殿 それは私たちの
夢だった

緑につつまれたハワイ神殿



そこでなにを学び何を教えられたか

— 第2回ハワイ神殿訪問者の証から —

胸をときめか

したハワイ入

熊谷たまの

(札幌支部)

ハワイ神殿訪問に就いて証を述べるように命ぜられましたことは私にとりまして限りなき光栄と心から感謝いたしております。

一昨年第一回神殿訪問の際は不慮の怪我で参加できませんでしたでしたが今回第二回の神殿訪問には主のおゆるしを戴き、永年の宿望を達することができましたので胸をはずませて全国の兄弟姉妹達の仲間に入りハワイ入りをしました。

第一步を印したホノルルの空港にはアンドラス、アンダーセン両前伝道部長は



左から二人目が熊谷姉妹

じめ往年日本に伝道したクリスチャンセン兄弟その他の宣教師達多数及びハワイの会員数百名の素晴らしい唄と踊の大歓迎を受けレイで顔が埋まる程でした。

その日から八日間の滞在中日曜日を除き六日間神殿の諸儀式に参加させて戴きました。朝五時起床六時半までに食事を終り休む暇もなくせつせと神殿通いに終始しました。

慈父のようなブルックス神殿長はじめアンドラス、アンダーセン兄弟その他かつて来日の宣教師達姉妹達まで私達のために、毎日神殿で奉仕して、情熱を傾けて指導の任に当られましたので、厳粛な神殿の空気の中にありながら、溢るる愛につつまれ、さながら天国にあるごとき感激にうたれ、短い日数とは思われぬ満ち足りたよろこびを心の奥底までしみ込ませることができました。

神殿への往復はスクールバスと親切な会員達のハイヤーなどで送って戴きました。このバスの運転手レックス兄弟はアルバイトの模範学生さんでいつもニコニコと顔の汗をふく暇もなく往復して、私共を助けてくれました。道路は広々としてチリ一つなく、道の両側には天を払うような高い椰子の木や、名も知らぬ樹々には色とりどりの美しい花が咲きほこり、ふくいくたる香気が車窓から流れ込み私共を恍惚とさせている間にバスは神殿の門前に到着します。私は末だ曾って経験したことのない神秘的な感激で覆わ

れました。

今回の神殿訪問に於て、神様の無限の愛と、人の愛、大自然の愛をひしひしと感得することができ、私の貧弱な信仰を助長させることができたと思えます。これは何にもまさる大きな収穫でした。

愛する全国の兄弟姉妹達よ来るべき第三回神殿訪問にはあらゆる犠牲を払って是非参加されますよう、筆や言葉では現わせない満足と大きな喜びを味わうことができると、私の体験から約束いたします。

兄弟姉妹達の上に神の豊かなる祝福が与えられますようお祈りいたします。

最後に小松伝道部長、渡辺、田中両副伝道部長はじめ各指導者の方々の懇切にして周到綿密なる御指導により私共の団体が一条乱れぬ行動ができたことを深く感謝いたします。

正夢になった

ハワイ行

室谷喜久江

(札幌支部)

御恵みにより、多くの人々の愛により神殿訪問に参加出来ましたことを心から感謝して居ります。

この旅行を振り返ってみますときに、たくさん楽しかったこと、珍らしいこ

と、また深く感激したこと等を思い出されます。けれども、今私はこの旅行の準備のために真剣に働き続けていた約二ヶ月前、この間に見た二つの夢について少



し書いてみたいと思います。其の一つはあまりにもはっきりと神の導きと分るものでしたので目覚めたとき速くにお祈りをし、尚一層良く理解させていただき準備を早めることが出来たのでした。しかし、この夢の筋道を詳しくここに書くことは差控えますが、唯この夢の中で私の姿がありありと玄関のガラス戸に映ったのでした。私はそれをはっきりと見ましたけれど自分の着ていた物が何であるか全然悟ることが出来ませんでした。ちょうどこの日に私を訪問して下さいました二人の姉妹にこの夢の話を語り合ったのでしたが、この内の一人の方は前回の神殿訪問に参加なさった人でしたので私の話を聞いて速くに私が何を着ているの

か分ったそうですが、其のときは教えて下さいませんでした。後に私は神殿に入ったとき実際にこれを見改めて夢の意識を深く知ることができたのでした。

私達は訪問の第一夜にハワイのいろいろの踊りを見せていただきましたが、其の一つに照明が消された闇の中にぼんやりと見える岩山の上、また中腹に丸く小さく照らし出された美しい光の中で踊る人々を見ましたが、これも私は夢で見ていました。この夢を見たとき世の中にこのような踊りが有るとは思いませんでしたので、唯愛な夢を見たものと思議に思い印象深かったので時々思い出していたのでした。神様は真実私が後で見るであろうものを前以て見せて下さいました。今もこのことを考えますときに身の引締まる思いが致します。神様は私のような小さな者、いたらない者を心にとめて下さり大きな心のささえを与へて導びいて下さいますことを深く感謝致しております。そして神殿には何回も行かねばならぬことを強く感じ何時の日かまた必ず行こうと希望を持って日々を過ごしております。

神殿に入った者は、祝福を受けるだけでなく義務を負うものであることを銘記して、より多くの時間と物とを福音による奉仕のために使はねばならぬと努力できますことを感謝致しております。

神様は真実生きておられ私共が忠実に従わおうとするときに多くの祝福をお与

へ下さいますことを証し致します。

自分の証を確め

られたことに感謝

鮫島 邦彦

邦子

(札幌支部)

私は現在仕事も全て順調に進み、これ等の多くの御恵みを数えるだけでも父なる神様が実に生き給うことを心から明確に知ることが出来ます。この確信をもっと確かにしたのは、第一回目の神殿訪問でした。私にこの貴い教えを宣べた宣教師に会い神殿の中で数々の永遠の儀式を受けたときに、多くの先祖のために働いたときに、ハワイの会員達の一人一人の兄弟、姉妹としてのあふれるばかりの愛にふれたときに素晴らしい靈感を受け心に強く刻みこまれたときでした。

第二回目の訪問が計画され再び大きな恵みを受けてこの機会にも参加することができ、主の豊かな愛と祝福を受けました。また自分の証詞を確かめることができ、心からの感謝を神様とイエス・キリストに捧げます。これ等の経験を通していえることはジョセフ・スミスは実際生ける神とその御子イエス・キリストに会いました。現在も啓示は続いて我々人間の上にあり、生ける予言者デビッド・O・マッケイ大管長にその鍵があることを、私

達がこの地球上に存在し、生きていると同じようにそれらは確かであります。

神殿訪問を機会として、今まで以上にもっと全身全霊をかたむけ、神の国と神の義を求めシオンの建設のために働き、ニーフアイが述べた証「私は主が命じたもうことを行って行う、私は主が命じたもうことには、人がそれをなしとげるために前以ってある方法が備えてあり、それなくては、主は何んの命令も人に下したまえないことを承知しているからである」が何時、いかなるときでも私自身が強く述べることができるように努力しよう」と決心致しました。(邦彦記)

六年程前非専任宣教師に召されておりましたとき、宣教師の証会が開催され



私も出席するようにすめられました。英語で進行されるその集会をよく理解することは無理とは思われましたがヒンクレー長老がおいでになられたことになつておりましたので出席いたしました。宣教師の証は全て英語でしたので一字一句を理解することは出来ませんでした。その想念は解るような気がしました。私も心の中の証を述べ最後に「神殿に於いて先祖の救いのためと自分自身のため

に儀式を受けることを望んでいる」と話しました。これに対してヒンクレー長老は「貴女がもし忠実ならばその機会はず有るでしょう」とおっしゃったことを思い出します。この言葉は私にとってとても大きな喜びと具体的な希望を与えました。必ず神殿の儀式を受けることができるにちがいない。これはそのとき以来いつも私の心を励ました。しかし具体的になんらの見通も持つことができませんでした。たぶん遠い未来に、老年になつたときその機会が来るのではなからうか、無意識の中にそのように決めつけ思い込んでおりました。しかし三年後には具体的な計画が示されその後一年余りで実施されたのです。計画が示されたとき私たちはまだ結婚しておりませんでした。私が共に参加することができるように準備しまして、多くの恵みを受けました。神殿の内に於いて自分自身のエンゲウメント、永遠の結婚また先祖のための儀式を感謝の中に終えることができました。

私がまだこんなに年青いときにこの機会があろうとは夢にも思いませんでした。

私の考えと神様の思いとは何んと離れていたことでしょうか。更にまた第二回目の計画にも思いもよらず参加でき、このことはただ私を驚ろかせるばかりです。神殿の儀式は言葉に現わすことのできない深いものが有ることを感じます。神殿の儀式を受けることによって救いの計画が確かなこと、必ず復活が起ること、一人裁きを受けなければならぬこと等この福音がひしひしと身に迫って来るような実感を知ることができました。死者のために身代りとなって儀式を受けるとき私たちの囲りを霊達に取りまいていようような感じさえ受け、一度も逢つたことのない先祖の人々が以前から親しく知り、語り合った人々のように身近な人に感じられました。霊界にいる数多くの霊のことを考えるとき私の働きがまだまだなまぬるいと感じます。いく度もいく度も身代りの儀式を受けることにより「死者なくして救われず」の意味を理解するにちがひありません。(邦子記)

神殿訪問旅行

を終えて

本 間 圭 子

(札幌支部)

三月十九日の北海道地方部大会は新装なつた札幌支部で行われた。その当日まで今回ハワイに行くなどとは考えてもいなかった。当日は系図のための集会であり系図のことについて色々話があった後田中兄弟の話により飛行機の座席がまだあいていて、行きたい人にはまたとない機会であること、しかも三才までの子供も同伴できるという話であった。私の長女は七月で三才になるゆえ、考えた末行くことに決めた。早速準備に取りかかつてある日曜日に東京から電話があり渡辺兄弟から子供は二才未満までしか無料でないと言う話であった。子供が一人前要るとあれば我が家ではどんなにひっくり返つても行けないゆえ、思案したが子供を置いて二人で行って来るようにと言う

地方部長の助けにより最初の決心を変えずにすみました。学校に行つて休の許可を受けようと先生に申し出ると、できるならハワイ大学に行つて今年の一月号のNational Academy of Science に出ている「スピン依存性ヘム蛋白の紫外吸収帯」の論文の著者ハワード・サンドバーグに会つて討論して来るようにと言われ、私よりも先に手紙がハワイ大学にとどいていました。私が会いに行くその当人がモルモンであるとは当人に会うまで知りませんでした。水曜日に英語のセッションがあったので渡辺兄弟に時間を頂いてハワイ大学を訪問して出張の役目を果しました。若干私の実験した内容につ

いて話をしてからサンドバーグの家にいき子供三人サンドバーグ兄弟姉妹の五人と共に夕食を頂き、良き家庭を見て来ました。次の英語のセッションには姉妹の父ポールとサンドバーグ夫妻が神殿に来て共に儀式を受けました。神殿長とポールは古い昔友だちで儀式後も懐しそうに語り合っておりました。北海道のような所で一人こつこつとハム蛋白をいじっていた者が偶然にもハワイの地で同業の士に会い、しかも神殿に入っていると言うことで大層感激しました。良き友をえて帰ってからも以前にも増して仕事に喜びを覚え、ハワイ訪問の良き収穫の一つとなりました。

次に書きたいのは家庭の夕べの招待の



ステーク部の歓迎パーティの席上で

ことです。木曜日は家庭の夕べ招待のスケジュールでした。招待してくれた家庭はホートン兄弟の家で、暖かい夕食の後に話、ゲーム、幻燈がありました。そこで得たものはモルモンの考え方でした。そこから凡ての行動が湧き出て来る子供のときから育てられているモルモンとしての考え方でした。結論は神から与えられた法則をよく知ろうとすることでした。物理的に万有引力の法則が物質界を支配しているように精神界にもある法則があって、これに従って凡ゆる精神活動がなされ、天上にも地上にもある掟があり、これらを知って神様を知るようになることをレッスン・ゲームを通して家族に教えていました。あることに對してどうあるべきかと言う考えがそのように育てられているのでした。そのような考え方が内に育ってから始めて精神的にも物質的にも未だ組織されていない不完全な世界を完全にするようにと言う言葉「汝らの天の父の全きが如く、汝らも全かれ」に従へるのであると思いました。次のように書いた方が良いでしょう。私たちはジェスチャーによってその意味を判断して答えると言うゲームをしました。二つに分れて私たちの出題はタイピングで私がビショップの役をやり、一人づつ無言の中にタイピングを出して行くときとその中にある精神的法則を言いあえると言う具合です。相手方は、とりも飛行機が地上に降りる動作でその中にある

精神的規則を問うのです。答は *Rate of the land (ing)* ランディングからランドを取り出して答えると、地上での掟、となるわけです。ホートン兄弟が最後に言った「私たちは国籍人種を超えて一堂に集まり家族の夕べを通して何かをえたであらうと思いますが、どうかそれを失わないで思い出して下さい」と言う言葉を書きたいと思います。ハワイ訪問に於て祈りながら考えるとと言う考え方を来て来たことは大きい収穫の一つでした。

ハワイにての感激の数々を総て書くには及びませんが、少しのべたいと思います。神殿長は私たちを心から歓迎して下さいました。あの巨体から、にじみ出されているのを、強く感じました。そしてやさしく語られる日本語を聞くとき、尚一層感激しました。また神殿の中で、右も左も分らない私たちを、最後までやさしく、導いて下さった兄弟姉妹の献身的な態度は、私の憧れるところでした。終りの日に近づくに従い、彼等が非常に疲れているのを感じまして、私は自分の疲れ等は問題にならないと思ひまして、尚懸命に働いて下さる彼等の姿をみて、神様に仕えることの素晴らしさと、そこに神様の偉大な愛のあることを、身にしみて強く感じました。(広記)

死者のバプテスマの行われる朝、二人の副伝道部長は、顔を並べて食事をされていました。それまで、死者のバプテスマは、代理人以外も神殿に入れると言うことであつたのが、朝になって急に、代理人のみと言うことになりました。代理者でなかった私は非常に悲しみました。過去十数年間、系図を調べ、いつか自ら代理人として儀式を受けたいと願っていたことでもあり、遠いハワイへ来て、心待ちしていたのに、せめて儀式に立ち合うだけでもと思っていた私の目前は真暗になりました。何かの間違いであればよい、何とかならないものかと、私は、ちょうど居合せた二人の前に立ち訪ねますと、やはり駄目なようでした。私は、立ちのくことをしりこんだ、すると渡辺兄弟が、まず神殿に行つてみなさい。貴女の信仰いかに許可になるかもしれないでしょ、と言われました。私は決心して外へ出ましたが、南国の太陽のもと、早朝とは言え太陽は強く私の身に照りつける。急いで歩き乍ら、もし許可にならないかったら、と考えると、疲れが増し、途中一、二度引き返そうかと思ひましたがいやどうしても、と思う気持と、門をたたけ、の聖句を思い浮べ、たたいて尚止ざされるなら悔いはない、と意を決し歩を速めました。神殿に着いたが、なかなか許可が出ない、私の後から来る人々は次々、中へ入ってゆく、やっと、田中兄弟を通じ許可が出ました。私は試めしを受けたことを喜びました。一人の死者のために代理の儀式を受け、死者の身代りになれたとき、神様の在りますことを強く

感じました。神殿でいろいろな、儀式を受けている間じゅう素晴らしい気持ちになりましたことと同じであります。ハワイに於ける貴い経験を生かし、日々の生活を豊かなものとし、また、神殿を訪れる日のかぎりなくあらんことを。(圭子記)

天の家のその幻

表す言葉なし

中村 晴 兆

洋 子

(京都支部)

神殿の正面に初めて立ったとき私は本



祝福師のタイ兄弟と

当にちっぽけでつまらなく見えて恥ずかしかった。世の中の人々が血眼になって追い求めている富がいかに取るに足らぬ物であるかとしみじみ思い知らされた。と同時に、この場所は私にこれから将来一体何を成すべきか? ということをはっきり示してくれる場所であることが直感的に解った。

私は幸いにも母親の両親、すなわち祖父と祖母の身代りのシーリングを受けることができた。祖父と祖母が身代りの儀式を受けている私と洋子の姿を、死者たちの取り巻く群の中から小踊りし、手を取り合い背伸びしながら眺めている姿が、ちらついて仕方なかった。私は感激で思わず目頭が熱くなるのを覚えた。確かに死者は待っている。私たちが系図を探究し身代りの儀式を受けてくれるのを首を長くして待っているのである。私はまた、世の中で最も美しい人間の姿をここで見た。すなわち、死者のためにバプテスマを受けている人の姿ほどこの世の中で美しい者をいまだかつて見たことがなかったのである。その姿は正義感に満ちあふれ、頭は御光がさしているかのごとく光り輝いて見えた。確かにこの末日聖徒イエス・キリスト教会は神様の真の教会である。生ける者も死にたる者も共に救われんがためにある唯一の教会であるという証が増々強く我々に迫って来る。

私はまた、神殿で働く人々をとて美

くしいと思った。草むしりをしている人や、ガイドをしている人がとてもうらやましかった。彼等はすべて美しく輝きを放ち、祝福もいっぱいに受けている感である。その中でも神殿長は抜群であった。殺人的に多忙な毎日：日本からやって来た聖徒のために恐らく食事という食事は全然取れなかつたろうと思う。そんな多忙な毎日にも決して、けわしい顔つき一つしなかつた。それどころか一見して疲れ切っているのが、ありありと分るのに私たち一人一人に対して肩を抱き、握手し、ニコニコと満面笑みをたたえ、励げましたわって下さった。この人は不思議な人だ! としみじみ見つめた。どうしてこんなすばらしい性格ができたのか? この人柄を見たとき、私たちは確かに神様のごとくなれるのだという強い確信を持つことができた。神殿の中での最初の儀式を私に施して下さいった職員の方が声を振るわした。そのふるえは次第に大きくなりやがて涙声となり、遂には泣き出して声をつまらせた。私は力いっぱい歯を喰いしばって頑張ったが、両方の頬に大粒の雨がとめどもなく流れ落ちるのをどうしようもなかった。日本語の流暢な方であったので多分一世の方だと想像できるけど、日本の聖徒がはるばる海を渡って神の家に宝を積みながらやって来たことに感激されたのだと思う。これほどに日本人のことを思っただけでも有難

く一段と身が引き締まった。私たちにとって忘れられない人がいる。祝福師のタイ長老である。普通、祝福師が祝福を施すときは断食をするらしく体力的にも一日に三人の祝福が限度とことである。ところがタイ長老は一日に七人も八人も祝福をした上、最後の日は私たちの証会に出席し四時間もの長時間、じつと分らない日本語の証会を忍耐強く聞いて下さった。最後の断食日だったので多分精魂尽き果てたのではないかと、とても気毒だった。私たち夫婦は恵まれてこの人と多く一緒の時間を持つことができた。ドライブインで昼食を共にし、また最後のハワイアンルアウのお別れパーティーのときも、ずっと一緒にいた。タイ夫人に妻の洋子の持参したユカタと下駄をプレゼントした。ユカタをちゃんと着せてあげてパーティーにさそったとき、御夫妻は目を細めてとても喜んでいられたのが印象的だった。ハワイで多く会った人の中で、この御夫妻ほど質素で謙遜な方を見なかった。ふり返って見ると私がこのハワイの地に來たことすら大きな奇跡であった。この計画に参加しようとした二年前は、わずか五万円足らずの金が手元にあるのみだった。神殿に入るには結婚して夫婦揃ってでなければその価値がないと聞かされていた。洋子姉妹と二年先を目標に結婚したものの私たちの安月給ではとても結婚した上に、家を貸りてさらに

二人揃ってハワイ神殿に行けるだけの金額ははじき出せなかった。しかし私たちは心より信じた。私たちが二年間、まず誠心誠意でもって第一番に神様の仕事をなし、どんなに苦しくとも自分の一を神様にお返しするものは、力いっぱいお返ししてお役に立ててもらおうと努力すれば、神は必ず私たちを神殿に導びきたもうと信じた。そしてまた妻の洋子は妊娠三ヶ月で医者から旅行をひどく止められていたにもかかわらず、何の事故もなく無事目的を果して帰って来た。私はこの多くの恵みを決して忘れられないし、また、神に心より謙遜に感謝しお祈りせずにはいられない。

みのるほど頭を たれる稲穂かな

堀田 徹

幸子

(名古屋支部)

神殿の忙しいスケジュールと、慣れない赤ちゃんのお守りに疲れかけていた六日目の土曜日の午後、素敵な車で私共を迎えに来て下さったのがアーネスト・T渡辺兄弟でした。神殿の中で働いて下さった方の一人でしたが、はじめてお目にかかったとは思えないような親しみと、また、私共より日本人らしいような方言のまじった日本語で歓迎して下さい、オ

アフ島の約半分をまわって、ホノルルの彼の家まで案内して下さいました。着くと、姉妹が待ち迎えて下さったのです。彼女もまた、神殿の中で働いていて下さった方の一人でした。子供さんたちを紹介されて、はじめて彼女の年を知りあまりの若々しさにびっくりいたしました。大学生の方を頭に三人の兄弟と三人の姉妹という子供さんたちがいらっしました。その日はパーティーのためにホノルル、ステークセンターに連れて行って下さったのですが、教会が何と車で二三分の近さで、歩いても五六分と思われるようなところでした。

パーティーは年に一回といわれる大きなもので、兄弟姉妹によって、沢山の御馳走と催しものを用意され、若い方々がよく働いているのを見ることができました。渡辺家の子供さんたちもその中にいるのが要られました。渡辺兄弟と姉妹は落着いた、控え目な方々でしたが、少しの間いっしょにいただけで、そのあたた



ドミトリの前で

かさど、私共に対する思いやりを感じることができました。そして、良い方々だなあといい思いを抱くようになりました。が、次の日に、その子供さんたちが、教会で果している役割を見て、彼等が私共に感じさせてくれたものの源がどこにあるのかということがよくわかりました。次の日は安息日でしたが、彼等の一人はオルガニストとしての責任を果し、また、一人は聖餐の祝福、そして一人は聖餐のパスという責任を果していました。前日のパーティーでの働きを思い出し、また、渡辺兄弟姉妹の神殿内での働きを思い起し、彼等の信仰を知りました。黙っていても、私共に感じさせるものが何であつたかということがわかりました。

その日の午後、兄弟姉妹は、島の残りの半分を案内して下さいましたが、途中で、いぬむりをされた姉妹を見て、私共を歓迎して下さいるために忙しい思いをされたことを知り、その好意に感謝いたしました。後に、私たち日本の会員が、神殿で日本語で儀式を受けられるように、彼等は二カ月もの間、日本語を覚えるために神殿に勉強に行かれたことを知りました。忙しい生活の中で、片道、車で一時間という神殿へ何度も行き来されたことを知って、彼等の愛と信仰を嬉しく思いました。そしてそのような彼等が「私たちは日本人のおかげで、信仰を強くすることができました。日本人の会員

たちが、神殿に来たことは、ハワイの会員たちの信仰を強くしました。」と語られるのを聞いたときはとても嬉しく思いました。お互いに、このように励ましあうことができるのだと知ることは嬉しいことでした。

一度家に帰り、また、夕刻の聖餐会に出席しましたが、教会まで近いので一日二回往復することがちっとも苦にならないことは全く羨しいことでした。車の中でネクタイをしめながら行く若い兄弟を見て、何と便利で豊かな生活だろうと思わせられました。夕刻の集会では、小松伝道部長御夫妻がお話と証詞をされましたが、とても良い集会でした。私は英語がほとんどわかりませんが、それが良くなりました。帰りに道ではワイキキをドライブしながら、渡辺姉妹は「小松兄弟姉妹の御家族は本当に素晴らしい信仰の方々です」と、感激と尊敬の思いをこめて話されました。それを見て「ああ本当にそうです。そして貴女方の御家族もそうです」と言いたい思いがいたしました。

また、私共はオアフの島で謙遜な他の多くの人々に会いました。朝五時にキャフテリアにやって来て、私共の食事を準備して下さいた姉妹たちの態度、その食堂で、一人一人にカップへ水を注いで下さったおじいさん(彼のエプロンの裏には、大祭司が秘められていたこと)神殿の庭で雑草を採り、庭木の手入れをする

日焼けた掃除人は、翌日には神の官居で尊い儀式を行う方であり、太っちょのドミトリのおばさんは、白い衣で、神を讃美するオルガニストでありました。彼等の、彼女等の日常の生活には、微塵も傲慢さは見られず、神の栄光を、まごころをもって仰ぎみて生活をする故に、謙遜で、柔和で、その愛は深いものでありました。私共は次の日本の謬を、六千三百キロメートルも離れた南の国で、それ意味を改めて教えられて参りまし。」「みのるほど 頭をたれる 稲穂かな」と言うことを……。

今度の計画を遂行する上に、多くの貴重な時間と労力と配慮をかけて下さった伝道部長会をはじめとするすべての方々に、また、ハワイの方々の陰に陽にの奉仕に感謝し、ココナツツの木陰より望んだ白亜の神殿を想いつつ、ペンを置きます。

最も安全な船に乗せていただいた感じ

坂井圭

光代

(西宮支部)

神殿の感想は『素晴らしい』の連発ですが『しっかりと錨をおろした最も安全なびくともしない船に乗せていただいた』感じです。かつて、マッケイ大管長

は「すべて神を信ずる者はこの世よりも勝っている世すなわち神の右手の場所を少しも疑わずに望むことができ、このような望みは信仰から生じて人の心の錨になるものであるから、この錨のために人はしっかりとびくともせぬようになり、いつも善い行ないをして神を崇めるようになる」との言葉を送られました。」「この世につきまとう試練や艱難がおよつてこようと、また激情のあらしや疑惑の暴風雨、突風がいかに荒れ狂つても、いかんともすることのできない錨をしっかりとおろした。びくともしない船に招き入れて下さり、そこで新らしき確信と知恵と力を教えて下さいました。錨をおろした神殿と、すでに錨を受けてゆうゆうと航海する兄弟姉妹との交りで過した十日間は、この世とは異なる「夢のような十日間」でしたし「安息日ばかりの十日間」でした。久し振りに再会した

帰還された宣教師たちやこの世では初対



永遠の結婚して出てきたところ

面の兄弟姉妹の親切と奉仕であらわされる愛は、前世での交りがたしかにあったこと、また、来世での再会と喜びが必ずあることをはっきりと教えてくれました。

フル・プログラムが展開されている。ワードでの安息日は、大リーガーの野球を観ているようで、そのスケールの大きさと愛の基本動作に忠実な、ゆきとどいた心くばりが印象に残りました。

監督は聖餐会で、うしろの席に執事のメッセンジャーをおき、あるときは出席

人数の確認のため、ワード書記のところへ派遣したり、また集会場を涼しくするため、アロン神権者にドアを開けるよう

伝言させていました。また閉会の歌が始まると、席をたち、後部出口で、早く帰

路につく兄弟姉妹たちとの交りを逃さないように、あらかじめ待機されていま

た。ホームティーチング委員会では、病

気のため職を失い、静養している貧しい

未亡人を助けるため、アロン神権者が、

朝六時から庭掃除にいく段取りがなされて

いましたし、ある商店からの信用ので

きる管理人が必要なので、ぜひモルモン

にきて欲しいという求人依頼について検討されていきました。また訪問できなかった家庭へは、その月の主な出来事を伝えるため、手紙が送られていました。この月のニュースは、日本から約百三十人の聖徒が、神殿訪問にやってきたこと、また東南アジアで従軍中の兄弟が、休暇で

帰ってきたことなどでした。一人一人の兄弟姉妹となんとか、とけ込もうとするよく考えられた、プログラムを感じました。

招待していただいた家庭の日は、大祭司のお父さんを頭に十一人のお子様たちと、やさしいお母さんと組織された、ナルアイ家族でした。堂々としたお父さまの神権と、たくさんのお子様を育てられた貫録あるお母さまの愛で航海するこの家庭は、どんな試練にもびくともしないゆつたりとした安定感を感じました。

「神殿」そこは私が当教会の会員となつてから二年半の間、いつも入りたいと願ひ続けてきた場所でした。幸福にも改宗してすぐに先祖のための働きと神殿内での種々の儀式について教えを受け、その上こんなにも早くこのすばらしい機会が訪れたことは本当に神様のお導きと深く感謝しております。私たちのプログラムが成功するようにと兄弟姉妹が断食までして祈り応援して下さいましたこと、両親たちからの愛の援助。私たちは何と恵まれていたことでしょう。系図協会からチェックが終って返送されてきた先祖たちの記録を、すでにふくらんでファスナーの締まらない旅行鞆につめ、いよいよ明日出発という晩、これまで色々と準備してきた日々色々なことがあれこれと思ひ出されてなりません。お寺も役場も戦争で損失し、探し求めた記録がも

はや手に入るすべがないのかとあきらめかけていた矢先、私はふとしたことから祖母の姉妹のうち唯一人生に残っていた人に会うことができた。それは決してふと聞き出せたのでした。それは決してふとしたことではなく神様が導いて下さったのだと信じています。系図だけでなく他のあらゆる面において、御助けなくして決して今回の神殿訪問は果せなかったでしょう。不安な気持は祈りの毎にやわらげられ、飛行機の中へ沢山の見送りを受けて乗りこんだときには、安らかな気持ちでした。ハワイに着いてからの向うの兄弟姉妹のもてなし、それは今思い出しても涙が出ます。毎日神殿に入り自身のエンダウメントを受け、また先祖とまみえました。愛する兄弟と永遠に結ばれたのは、私たちは本当に感激の涙をとどめることができず、アンダーセン兄弟から何度もクリネックスをいただきました。「神殿」そこはまさしく天国のようでした。そしてそのすばらしく価値ある儀式、神聖さ、隠やかさは、何か私に勇氣と確信と安堵とを与えてくれました。広がる希望を一層明らかに生きる目安を得ることができました。私は本当にこの十日間のうちに、すばらしい日々をすごしたことは始めてです。愛すべき現地の兄弟姉妹たち、とても楽しく良い参考にさせていだいた家族の夕べ、美しいハビスカスの花、澄みきった青空と深く静かな海、安全な組織と建物を備えたワ

ード、フラの手ほどき、息苦しい程に香りをたたえたレイ、これらのハワイの思い出は今も神の宮居のすばらしい印象と共によみがえってきつてなつかしくさせます。

ただ感謝あるのみ

奈良 富士哉

(横浜支部)

再度の神殿訪問で、神殿に於ける全ての儀式(エンダーメント及びシーリング永遠の結婚または死者のバプテスマ)に出席して、聖霊に満ち溢れた儀式中に



私は少なからぬ靈感を受け、その荘厳さに直面したことは大いなる感激でした。

私にとって、この大きな感激と共に、これ以上のよろこびがありません。信仰うすき私にも最大の証詞を得たことを、深く神に感謝した次第です。何んと

素晴らしい儀式でありましょう……。

はじめ本教会がヒーバー・J・グラント使徒によって一九〇一年日本伝道が開始されてからその間、幾多の事柄があったとはいえ、一九二四年一旦日本伝道部が閉鎖され、一九四八年三月に再開され、次で十七年目に多くの兄弟姉妹たちの努力が実りました。そして、最初の神殿訪問が実現され、二年後の今また再度この計画をされて、私たちも幸いこれに参加でき、神殿の儀式を完了したよるこびは、ただ感謝あるのみです。そして神の御恵みのいかに偉大であることを如実に知ることができました。

・ どうか多くの兄弟姉妹たちよ！

神殿に於ける儀式がどれ程大切であるかまたこの儀式を受けることによって最大の幸福を与えられるでしょう。

ハワイ在住の兄弟姉妹がたが最初の訪問のときと変らぬ愛を惜みなく与えて下さり、これも感謝と感激でありました。

子供たちに強く

進められて

百瀬 梅代

(松本支部)

昨年の暮から二人の娘(久子、城子)に「お母さんハワイ神殿に行つて来て」と言われましたけれど、私は何時も「それどころではないよ、もう貴女たちは何時



結婚するようになるかも知れないではないか。そのための用意をしないといざと言つても困るではないのと世間的考で強くはんたいしておりました。二月の地方部大会のときに渡辺兄弟にもよくよく進められましたが、やっぱり私は未だ未だ行くときではないと考へて帰りまして。でもその後子供たちがきかんに進めますし、「お母さんこの世のことと神様のこととどちらを先にすべきか知っていますか」とか、「私たちはどんなことでもするから頼むから神殿に行つて来て」とか私たちは未だ相手も見付からないから何時結婚するかわからないのにそれを待っていて若お母さんが死んでしまつたら私たちは神様に申ひらきができない」とか、毎日毎夜のように言つて一生懸命進めますので私も遂に「そんなにお前たちが言つて呉れるなら」と言つて神殿訪問を決心したのが三月始でした。支部長を通して本部のお許も出ましたが、公務員のはしぐれと言うのに国家公務員渡航承認請求書と言うやっかいな書類が中々頂けず漸々五月二十二日手に入るよ

うな状態でした。四月二十八日からそれまでの間に私たちは思わぬ所で悪摩に邪魔され苦しめられました。其のために早く其の手續を完了することのできますようにと親子三人で三日も断食をして祈りました。また一日に三回も東京まで電話をして種々と問合すことも再三でした。もう駄目か知らと思いましたが程でしたがキセキ的にも五月卅一日にバスポートを地方事務所から頂き名古屋まで持って行って間に合ったような次第です。でもそのときの喜びと神様は本当に生きてましまし、私たちの願をお聞入れ下さったのだと知ることができて涙を流して感謝致しました。そうしてどんなに悪摩が働いても神様の前には正しいもの前には勝つことができないと言う証を強くすることが出来ましたまた神様に忠実につくし従うことがどんなに強いことで有るかと言う証も強めまして嬉しく思いました。そのような大きな体験と証を得て神殿に行つて私は何を待たでしょうか、神殿の中で受けられた数々の尊い儀式先祖の人々が救に入れます道を手伝ふことのできま喜び、そうしてこの世的な問題よりも何をおいても神様のお言葉に従うことが、一番大切で有り神様のいましめに忠実に従うときには言い知れない喜びと共に受けきれない程の祝福にあづかることができるのははっきりと知りました。そうして今まで私の考へは間違っていたことに気が付きました。そうしてまた誰も本当

に行こうとすれば、神殿に行くすべは開けますこともわかりました。またそう願うときにその信仰は一層高く強まりその行は正しくなります。神殿において数々の儀式をこの身を持って行いこの目で見るときにこの世の中の何よりもまして尊い価値有るものを体験することが、出来ます神の存在をはっきり知り唯一誠の者を持つ喜びで一べいです。そうしてまた次の機会にもぜひ行きたい。今度は子供達家族と共に行かれますように、とひたすらに願ひ努力する心算です。ハワイたいざい中は何とも言えませんが、ヒイテ言うならばそれはエデンの園の生活でしたと言つても過言ではないでしょう。なぜならば気候は良く美しく衣食住の心配はさらになく、来る日も来る日も神様と共に御声を聞き隣人先祖の救のために従ひ働いているのですものこの美しい有様を誰もがエデンの園と表現するでしょう本当にすばらしいです。また行きたいでさることなら一生でもそのところにとどまりたい気持でした。

ヨシムラさん一家

前田 莊六

(東京南)

かねて日本にいた赤木姉妹は、私たちに一人の兄弟を紹介してくれた。

名は、ヨシムラさん。小柄で、日焼けしている。不思議だ、百年の知己のよう

に思える。とりたてて名乗り合うわけでもなく出発の準備を手伝ってくれた。その日、私と妻ときよりは彼の家でお世話になることになった。

「コノニモツモツ、イキマスノ？」
広島弁だろうか。特に気をつかうわけでもない。いつも笑っている。

長女のナツコ嬢も来てくれた。十五才で一週に一度日本語の学校に行っているそうだ。すこし恥しそうだ。

ヨシムラさんは車の運転が上手だ。彼のフォードは滑らかに宿舍をめけだし、海岸を走り、広大なパイナップル畑を通つてワヒアワ街に入った。

西部の街を思ひだす。標高二千メートルとあって涼しく風も豊富だ。ヨシムラさんの家はこのワヒアワのはずれで、近くにその街の貯水槽がある。

ヨシムラさんには八十才になるおじいさんとおばあさんがいる。若いとき山口県からハワイに渡つたそうだ。親しく話



をしてくれた。すこぶる元氣だ。歯は一本もないけれども肉等をどんどん食べる。写真には、離れて並んで写つてくれた。ナツコ嬢は良く気がつく。素直なところが印象的だ。8ミリが好きでいつも何かをねらっている。私たちを主題にしているようであったが果して期待に沿えたかどうか。

次女のサトミ嬢は大人しく物事を良く観察する。お姉さんのこと、弟のすること客観的に見ている。弟のトシオ君、まったくのあばれん坊。持っているカメラは写真機ではなく水鉄砲。しかし安息日になるとネクタイをしめ、髪をきれいにセットして教会に行く。アロン神権者として聖餐を配っていた。

奥さんは気どらない。非常にやさしいお母さん。話がやわらかく丁寧な方。

ヨシムラさんは大工さんだ。安息日になると朝六時頃教会に出かける。ワード部の会計をしている。私も一緒に行くこととしたが寝坊してしまった。ヨシムラさんに迎えに来てもらつてやつと神権会に間に合った。「ツカレテマスノ」

七十人の職を受けている。偉ぶるわけでもなく、さりとて自己を卑下するでもない。物事を憂うわけでもなく、他を非難するでもない。

ただ私たちが満足してくれることを喜んでくれている。終止生きた福音と生きた愛とを私たちに示し与えてくれた。キリストはかつて十二使徒を野道から

集められたことがある。皆な平凡な人々であった。

ヨシムラさんも平凡な人だ。指導者としての風格を特に身につけているわけではないが、信頼感と徳の深さがありありと感じさせる。信仰が体にしみ込んでいるのだろう。

私たちはヨシムラさんの家庭からも、またヨシムラさんその人からも、神の業を行う人々の姿を見出すことができたように思えてならない。

確かにこのように神の業を黙々と行なう人々は方々にいた。神殿の中にもいたし、神殿を案内して廻っていたし、また私たち百三十人の三度の食事を準備してくれていたし、寮で働いていたし、ウィドで個々の責任を果していたし、ステークの監督もそうであった。ハワイはこのような人々の集りだ。神殿を近くに持つ民のふくよかさを身にしみて感じる。日本に神殿が建つのはいつの日だろうか。

あらゆる苦難を乗り越える信仰が、角々していたりカチカチに凝固まっけていてはいけないうであらう。丸く、弾力性のある、美しい愛で満されたものはずだ。それは力を生むに違いない。

私たちは何かあるとすぐヨシムラさんの話が出る。

これは神殿で受けた祝福と証詞と、ハワイの人々から受けた愛の一節である。

再度神殿

訪問を終えて

柏倉 仁

柏倉 朝子

(横浜支部)

仁

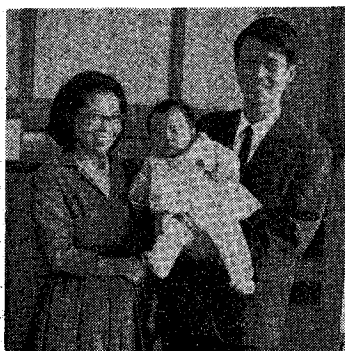
第二回目の素晴らしい神殿訪問計画も無事に終えて、ほっとした気持ちだ。

朝子

前とは違った印象もいろいろありましたね。今度は急に参加することになったため準備が大変だったわ。

仁

しかし、前に神殿で誓約したと、学んだことを二年間のうちに、自然と忘れて、はつきり憶えていない人だからはずかしい。電車の中で前に神殿に行ったときのことを考えていたら、心の奥からまた行きたいという気持ちが出来たので嬉しかった。だから、我々の経済的問題を何



とか解決して参加したいと思った。助けを受けることができて、今年末まで多額の借金をすることになったが、それで参加の見舞しも立った。

朝子

そうね。私達は前回のときも、経済的には何とか参加にこぎつけた状態で、二度、三度と行けるとは思っていないかったですものね。貴方がこの訪問計画を口にしたその日、私はファイアサイドで、「神殿訪問」について話の責任が当たったの。お話し、スライドを見て、もう一度神殿に行きたいと思ったので、二人の気持ちや考えが一致して本当によかったと思います。

仁

それからの約二ヶ月は今思えばあまり役立ったとも思えないがアルバイトを始めたり、旅行に備えて会社では残業続きだったりで、忙がしい準備期間で、二人揃って勉強をしたり、系図を調べたりすることはできなかった。勉強はもっぱら通勤電車の中だったね。

朝子

そのことは残念でした。私は訪問を計画した翌日、早速仕事を見つけて、子供は水野姉妹が見て下さるというところで、病院でパートタイムの仕事を始めることができたのですけど、本当にこのときは、嬉しくてモルモンでよかったと思いました。見ていただいた一ヶ月間働く私より、二人の子供を世話して下さった彼女

の御苦労を思うと本当に有難かったですね。今回はその外にも色々兄弟姉妹に助けて貰いましたね。

仁

また、前回のパスポートを無くしたのがいけなかった。警察、外務省、大使館等面倒なことが沢山あったけど、会社で時間を作ってくれたら、伝道本部の石井兄弟の助けがあったり本当に助かった。

朝子

前回以上に問題があっただけに一生懸命になったので、行くのが本当に楽しかったです。それにこの準備で証詞を一層強めることができたことも本当によかった。今回の神殿訪問で特に気のついた点は……

仁

気持ちに余裕があったことだ。儀式その他でもどんなことになるかという心配がなかったし、言葉も必要なのは、通じ合うと思うと度胸が坐った。

朝子

それから子供が一緒だったことやグループの責任等で、時間的にはいつも忙がしかったこと。誓約は誓約の子なのでシーリングの必要がなかったのに、いつも両親が離れていたため、このときだけでも一緒にいてやりたいと、連れて行ったのだけど、小さな子供には無理でした。暑さと寝不足で疲れて食欲もなく日毎に具合が悪くなって、日本に帰ったとたんに、元気になったのですから。次の機会からは子供は置いて行

くことにしましょうね。

仁 子供の扱いはもう少し考える必要があるね。

朝子 今回特に印象的だったことは？

仁 何よりも、死者のシーソングの素晴しさだ。聖なる厳肅さ、それにスピリットを感じて皆涙を流しながら儀式を行った。世界中にこのような平和があったらと思うにはいられない気持ちだった。

朝子 私も儀式のことが一番素晴しかった。英語の儀式に参加して、それまではっきり理解できなかったことが判明したし、後半子供の場合などで参加できなかったけど、これだけでも行った甲斐があったと思った。今度こそ忘れないように毎日毎日思い出しているんですよ。

仁 それに、前にも増して現地の会員の愛があったこと。誓子が熱を出したときなど、病院その他のことで色々親切にしてくれたので、少くも不安が無かった。

朝子 誓子がむずかり泣き続けるのにもかわらず、嫌な顔一つせず、あれこれと心配して下さり、お別れのと き、満足なお礼さえ言ってこれなかったのは本当に残念でした。この人々の親切を思い出す度に感謝の気持ち胸一杯になりますね。

仁 あの夫妻は本当に熱心な会員だったね。息子がドイツで伝道している

と誇らしげに話していたけど、その子が幼なときから、毎週一度は神殿の儀式に参加していたそうだから素晴らしい。

朝子 そう、朝早くから、神殿の儀式に喜んでたずさわっている職員たちを見ると、本当に素晴らしいと思う。日本に神殿ができたら、その近くに住んで、いつもあの人々のように入るようになりたいと思う。とりあえずは、住宅事情もあるけれど、これらもできるだけ教会の近くに住んでいつも集会に出席したいと思っています。

仁 もっと死者のために働きたいと思うけど、その度にハワイまででかけるのはもったいない。日本に神殿ができたら、もっと働くことができるし、多くの会員が自分自身のためまた死者のため喜びを得ることができると。

朝子 証詞会でも証詞されていたけど、参加した皆が、「早く日本にも神殿を作らなくては……」と思ったようですね。そのために私たちはどんな準備が必要なのかしら。

仁 先ず、系図の探求がもっともっと活発になること。そしてもっと多くの会員が神殿に入って、信仰と理解を深めること。そのためには、今後とも訪問計画が続けられる必要がある。そして神殿建築のために必要な

資金。一回の訪問で約一千万円が会員に負担されている。もう一度出かけるつもりで多くの人が今から貯えれば、神殿建築のために必要な資金は何とか集められるはずだ。決らずできると思うね。

朝子 そうね。自分たちでできることは、どんなして行かなくてはね。私たちは系図をもっとよく調らべることをね。

仁 神殿では神様がいてとか、いないとかなんていう気持ちが全然なかったし、ジョセフ・スミスが本当に神とイエス・キリストを見たという増々強い気持ちになりましたね。これからの神殿訪問計画にさらに多くの人が参加して欲しいですね。

神殿長は愛のかたまりのよう

高山 秀二

洋子

(東京北支部)

今回の神殿訪問の機会は、私たちの生涯で最も感動的で美るわしい思い出のページになることでしょう。それは日本の兄弟姉妹全部の愛の励しがあつたことによりできたのですし、同時にハワイの兄弟姉妹の献身的な愛と奉仕の結果によって無事安達することができたことであ

るからです。私たちはこれほどまでに固く強い兄弟愛を感じたことがありませんでした。私たちの心はただ感謝で一ぱいになり、私たちのために働いて下さった兄弟姉妹のために何かお手伝いをしなくてはいけないのだと強い気持ちが胸を打ちます。兄弟姉妹の皆様、私たちの心からの願いは全ての兄弟姉妹に神殿へ入る機会が与えられるようにということです。

地上に於て聖別されたただ一の場合である清き神殿の中に一步入ると何と平和であり、人々の心は愛と喜びと感謝に満ち、神は実に生き給うの喜びに涙がこぼれるばかりです。喧嘩ごうごうの世の不安は微塵もなく消え去り、大きな神様のふところに抱かれた安心感がひしひしと胸にせまりました。身体は健康に祝福され威厳ある神殿長の笑顔は愛の固まりのようであり神殿に入る前に抱いた不安と緊張をさっとふき消してくれました。静かな中で行なわれるエンダウメントは世の創始と神の大なる救の計画の秘力の中に



私たちをさそい込みました。シーリングは私たちにとって最も感動的な感謝の一時でした。夫婦として永遠に離れないことを約束されました。また、父母との永遠のきずなができました。私はすでに天国に召されたお母さんのバプテスマを受けました。姉妹は天国に召されたお父さんと今回共に神殿を訪問することができたお母さんと共に親子の結び固めを致しました。おじいさんおばあさいたちの代理のシーリングも受けました。天国に於て彼等が喜んでる歓喜の声が伝わってくるような気が致しました。どの兄弟姉妹も全部この喜びにひたり、見かわす顔と顔に無言の合意があり、感謝は大きなひと固りとなって天の神様への讃美と変りました。言葉では言い尽くすことができません。兄弟姉妹是非神殿への訪問を御計画されて下さい。

次にハワイの兄弟姉妹の献身と奉仕について申します。このことも口や筆で表わせないものですが神殿の中では多くのハワイの兄弟姉妹が日本語で私たちの世話をし全ての儀式をして下さいました。彼らは私たちが神殿にいた約十日間の間ずっと自己のお仕事を休んでいたのです。また、何カ月も前から神殿内ではしゃ語ってはいけな神の儀式を日本語で覚えるためにそこへ通って来ていたのです。その一人一人の方々が最大の犠牲を払っていたのです。その全ての兄弟姉妹の努力の程を申し述ることができません

が私たちが心より敬愛するアンドラス前々伝道部長さんが神殿の人口の方で御謙遜な笑みをもって私たちの道案内をしておいでになりました。同じくアンダーセン前伝道部長御夫妻が私たちの世話をみて下さいました。また、私たちのために一夜の宿泊を提供し、もてなして下さいたホノルルフヌイヌイワード部の照屋兄弟（ハワイの二世の方）姉妹の御活躍を目の当りに見たことを書きたいと思います。照屋兄弟はずっとお仕事を休んで神殿でお働きになっておいでになりました。彼の家はホノルルにありますので六〇マイルのフルスピードで走る高速道路を通して、神殿まで行くのに四十五分程かかります。彼は泊り込みで働いて朝の八時前より夜は九時までもほとんど食事の出来ない程にぎっしりと働きずくめの十日間です。でも彼の顔はいつも微笑んでおり私たちのために色々とお世話をして下さい、車を運転して下さいっておりましたが疲れた御様子を見せませんので、彼がそれ程までにお疲れになっていることを知りませんでした。でも食事のとき彼はとうとう食事をしてじっと座っていることさえできなくなりそっと一人座を立てて行かれました。私たちの前ではついに疲れた様子を見せませんでした。他の姉妹が彼の疲れていることを話して下さいました。何と心をつくし、思いをつくし、体力をつくした彼の奉仕の姿だったことでしょう。ハワイの兄弟姉妹はもち

ろんのこと、小松伝道部長御夫婦をはじめとする日本伝道部の指導者の方々もこのようにお疲れになっていたにちがいないりません。私たちはかくまでも力をつくして働いているモルモンの指導者の方々の謙遜な姿に接し感謝の気持ちで一ぱいです。翌日彼はまた、元気に私たちをホノルルより神殿まで車で連れて行って下さり神殿でお働きになっておりました。大変お疲れになったことでしょうと申しますと、大丈夫ですよ皆様も同じように疲れていらっしやいますでしょうと反対に言われてしまいましたしこの照屋兄弟のお姿はそれこそ全てのモルモンの指導者、熱心にお働きになるモルモンの兄弟姉妹一人一人の近くから見た姿である、感謝の気持ちを新たにさせられ自己の信仰を啓発させられました。私たちは神の御業にたずさわる全ての兄弟姉妹の上に豊に神様の祝福が与えられるように心よりお祈り申し上げます。

私の証

当真操 姉妹

（邦露支部）

それは忘れもしません六月三日のことでした。「東京からお電話ですよ。」という呼出しに、ふと結婚して上京している娘のことが頭をかすめ、恐る恐る受話機を受けました。ところが私の心配をよそに、電話の主は私を今回の神殿訪問に参

加するよう準備をして下さいという。伝道部長からの伝言でした。「いつかは必ず神殿に……。」と思いつけて来た私ではあります。余りにも突飛なお誘いがとても信じられませんでした。「行きたいとは思いますが、今の私には……。」と戸惑っていると、「あなたの心配はよくわかります。でも費用はすべて沖繩で働いていた宣教師たちが一緒に負担しますから、安心して心の準備をして下さい。」とおっしゃいました。その瞬間、私の胸の中は喜びと感謝で一杯になり、溢れ出る涙と共に今まで喜び悲しみを共にした宣教師たち一人一人の顔がいろいろな思い出と共に浮かんで参りました。あるときは伝道が思わしくないと、求



左から次女、私、長女洋子、息子の高山秀二

道者の質問に満足ゆくまで答えられない
と言って断食して祈る長老たちと一緒に
祈り、家庭集会の成功にうれしさをかく
しきれない姉妹たちと抱き合つて喜び、
いろいろと励ましたこと等です。この数

々の心打たれる思い出と、今受けた夢の
ような祝福に対して、一体どのように報
いたらよいのでしょうか。今から七八年
前、夫は一友人の保証人となつたため、
莫大な借金を背負わされてしまい、その
上病床に臥してしまつたのです。その後

私の必死の看病も甲斐無く五年前この世
を去ってしまいました。残された私は、
五人の子供をかかえて、明日を知らない
状態に陥りました。長男がC・C・Hで

長女が高校三年、次女が中学三年、次男
が同二年、三男は小学六年生と育ち盛り
の頃ですし、大学高校進学を目前に控え
た子供たちでした。教育だけでもせめて
一人前に受けさせてやりたいと思う親心
と、百八十度転換した実生活を考へて困
つてしまいました。苦境をさまよいなが
ら、何度か生きることをあきらめようと
思い悩んだことでしょう。ときには、神

様があまりにも不公平に思えて仕方があ
りませんでした。この崩れる寸前の私を
常に勇気づけてくれた聖句は、教義と聖
約五十八章二節と四節でした。「われ誠
に汝らに告ぐ、生くるも死ぬるもわが誠
命を守る者は幸福なるかな。およそ艱難
の中にも忠実なる者の報いは、天国に於
てさらに大いなるべし。四多くの艱難の

後に祝福は来る。この故に汝らがたいな
る栄えの冠を受くべき日は来るなり。し
かしてそのときは未だ来らずといえども
近きにあり」。

その頃私を見た親戚が集まつて、あ
る仕事を世話して下さいました。また一
方では長老たちが宣教師のお手伝いをす
る仕事を提供して下さいました。先の仕
事は子供たちを学校にもやれるし、満足
の行く生活を営む程の報酬が約束されて

おりましたが、教会をおろそかにしなけ
ればならないのは明らかでした。後の仕
事は私たち五人の生活を維持することは
不可能でありましたが、福音に従つて生
きてゆけるであらうと思われました。考

えに考えた末、子供たちに相談をしまし
たところ、口をそろえて、「母さん一日
一食でいいから神様の道を歩んだ方がい
い。進学のこととは自分たちで解決しま
す。」と、言ってくれました。それ以来苦
しみ悲しみの中を、お互いに話し合い、
証を分かち合い、讃美歌を口づさんで、い
つかはきつとたどり着くだろう黒暗の彼
方の光に向かって歩き続けて参りまし
た。

あのときはとても予期できなかった方
で神様は私たちの家族一人一人に、なす
べき必要な道を備えて下さつたのです。
あれから長男は恵まれて伝道に出るし、
長女はモルモンの大権者に結ばれ、次
女と次男は奨学金を受けてそれぞれの
大望む学に、無事進学し、残る三男も現

在高校二年在学中です。その上、思いが
けなく神殿での尊い儀式を受けることが
できたので、余りにも恵まれている自分
自身がもったいなく思えます。神殿を訪
問した際は、愛する娘夫婦と心ゆくまで
語り合い、ハワイの飛行場では次女娘や
私を教会に導いて下さつた赤嶺姉妹や、
他の宣教たちとその御家族に出迎えられ
て本当に幸福でした。

特に赤嶺姉妹とは、沖縄で別れたとき
「日の果で会いましょうね」と、約束し
合つたのに、ハワイの地で生きて抱き会
えるなんて、夢のようでした。

それからハワイの兄弟姉妹たちの愛深
い心に触れたときこの人たちがこそ教義と
聖約五十九章に書かれているように「汝
心を尽し、勢力と思ひと体力を尽して主
なる汝の神を愛すべし。またイエスキ
リストの名によりて神に仕うべし。汝己れ
の如く汝の隣を愛せよ」と、行なってい
ると感じました。神殿内では昼夜を離れ
て働らいておられる方々や、ブルク神殿
長御夫妻のやさしい柔和な御姿や、御言
葉、御心尽しが、私の胸の中には天使の
ごとく印象深く残っております。

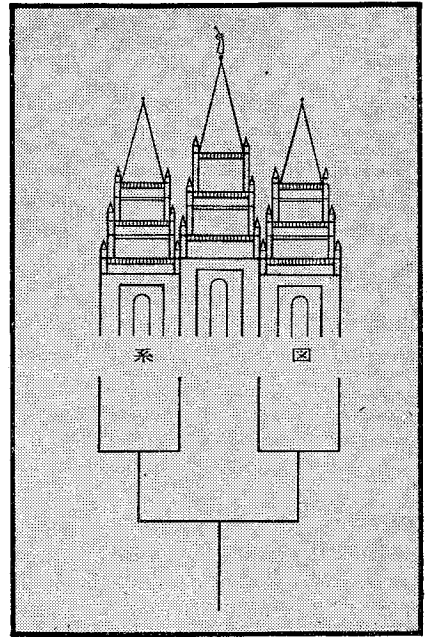
神殿は神の下り給う宮居であり、数々
の聖なる儀式や聖約がとり行なわれる場
所であることが、はつきりとわかりまし
た。母のエンダウメントを受けたとき、
生まれてすぐ死に別れた母と再会し、そ
の霊に抱かれていたような感激を受け、
また私たちの永遠の結婚をしたときは、

ありし日の夫を思い浮べ今後も良き妻と
なるよう努力して行きたいと心の内で誓
いました。私は娘二人と両親に結び固め
られ、始めて神の御国にあつて永遠の家
族を持つ喜びに満たされました。

ハワイでの八日間もあわただしさの中
に過ぎ去り、六月十四日には無事東京に
帰つて参りました。それから二週間余
り、東京を始め甲府岡山と、あちこちの
支部を訪ね歩き、息子娘達の生活ぶりを
この目で見て参りました。それぞれが神
様に忠実に従がい、喜んで責任を果し
ているのを見て、母として最高の喜びで
した。兄弟姉妹たちの愛に包まれて日々
生長して行く子供たちは、本当に幸せで
あります。

アルマがおっしゃつたように、いつか
はあらゆる艱難辛苦を免かれて安息に就
くことができると言ふ確かな望みを抱い
て、これらを耐え忍ぶべきであるとの教
えは、全くその通りであります。「神は
生き給う」、これが私の証であります。

☆ ☆



太平洋上のイスラエル人

渡部 正雄

予言者イザヤは歌いました。

「この故になんじら東にてエホバをあがめ海のしまじまにてイスラエルの神、エホボの名をあがむべし」

更に現代の啓示は予言者ジョセフ・スミスを通じて

「見よ、彼はオリヴェトの山の上、いと深き大海の上、海の島々、シオンの地の上に立たん」と宣言しております。

今度大いなる神の祝福の下に恵まれた日本の聖徒たちが第二回目のハワイ神殿訪問を無事終えて、一人の事故者もなく全員元気で帰ることができましたのは、

これひとえに慈愛深い主のお恵み、暖いハワイ在住の聖徒たちの愛情、伝道部長会始め役員たちのお世話の賜と心から感謝致す次第であります。

私たちの眼底、心の奥深く刻まれた、あの白い主の神殿を一九一九年十一月二十七日第七代目のヒーバー・J・グラント大管長が献堂した時、その祈りの中に次のような重要な言葉が述べられました。「我々はこの恵まれた地の数千のリーハイの子孫が福音に來た事を感謝する。我等は天父なる神にこれらの福音に生き福音を持つ人々が今この聖なる家に入り彼らの先祖の救いの為に働く特権を持つことを感謝する。今やこの神殿は完成し聖なる儀式は開始せられんとしている今日、お天父なる神よ、我等は汝がこの地の教会の会員たちに又同様にニュージーランド及び大平洋の諸島の原住民たちに彼らがこの聖なる家に来て彼らの先祖たちの救主となるように道を開くよう祈る」

ハワイ、ニュージーランド及び多くの大平洋の島の住民は真にリーハイの子孫であります。彼らはこれらの島々に居住してから彼らの家族の系図並にその種族に起源する伝統を保存して來ました。

最近彼らが神殿の仕事ができるようにこれらの貴重な系図をマイクロフィルムに写しとることが正式に許可され、既に実施され、或記録はユタの系図協会の図書室に納められております。

現在南太平洋上に散在する数千の島々に居住する民族を大別すると次の三種に分れます。

(一)メラネシア人

或科学者たちの主張によればこれらの種族はオーストラリア大陸に近い西南太平洋上の混血した民族で、大きな島では山奥に住みついて海岸の船乗り種族と趣きを異にしております。大体次の諸島に散在しております。

フィジー諸島

ニューカレドニア島

ニュージーニア

ニューヘブリデス諸島

パプア島(ニューブリテン島、ビスマルク諸島を含む)

フィジー諸島には、特に東部の島々には最近多くのポリネシア人特にサモア人トンガ人が移住してその一部をなしております。

又私たち日本人にとって興味あることは日本民族史の研究家である荏司憲季氏は昭和初期から、大平洋島興誌を研究していたが昭和十年ごろ、たまたま南太平洋のニューヘブリデス諸島の首島、エワテ島語を整理しているうちに、これが古代日本語ではないか? という疑問を持ったと言っております。同氏はそれがきっかけで調査研究を重ねた結果、日本の最古の文献である古事記は神話、伝説の類でなく古代日本民族の、真実なる史書、だということが、言語学的に考証

タヒチ島の姉妹



づけられ戦前の歴史では、天孫降臨の地は九州の高千穂峰であり、神武天皇は日本列島の和で即位したということになっていたが、そのどちらも実は日本列島ではなく日本列島に大和朝廷が渡って来たのは応神天皇の時、それまで大和朝廷は大陸各地を転々としていたといい、高天原もこれと同様に天界や宗教上のもの

ではなく地上に現存する単なる地名に過ぎない、原語はタケアメハラでタケはココカサスをアメはアルメニアをそれぞれ指しハラは旧約聖書によれば紀元前二千年ごろ建国されたミタニ帝国の領地にハラの古地名があり、チガリス川流域地帯を呼んだもの、つまり高天原は偶然にも世界最古の文化発祥地帯といえる主張

しております。

これは次のミクロネシア人が蒙古系の血を含んでいることと考え合せる時、イスラエルの散乱にマナセ族の一部が東進のて蒙古、中国に達した事、又日本刻島に達したことも考えられること、又一方リーハイの子孫、ニーワイ人ハゴツの民がハワイ諸島その他の島々に散乱したこと、或は日本列島にもその一部が上陸したのではないかと思われることなどと考え合せる時、私たちに興味ある課題を提供するものであります。

(二) ミクロネシア人

これは小さな島々の民という意味ですが彼らが中西部の小さな底いさんご島に住んでいるからで言語習慣等に於てポリネシア人と混血した形跡が見えるが又蒙古系の根拠をも留めている。その主な島は、

カロリン群島

ギルバート諸島、エリス諸島、ウェ

ニックス諸島

マリアナ群島

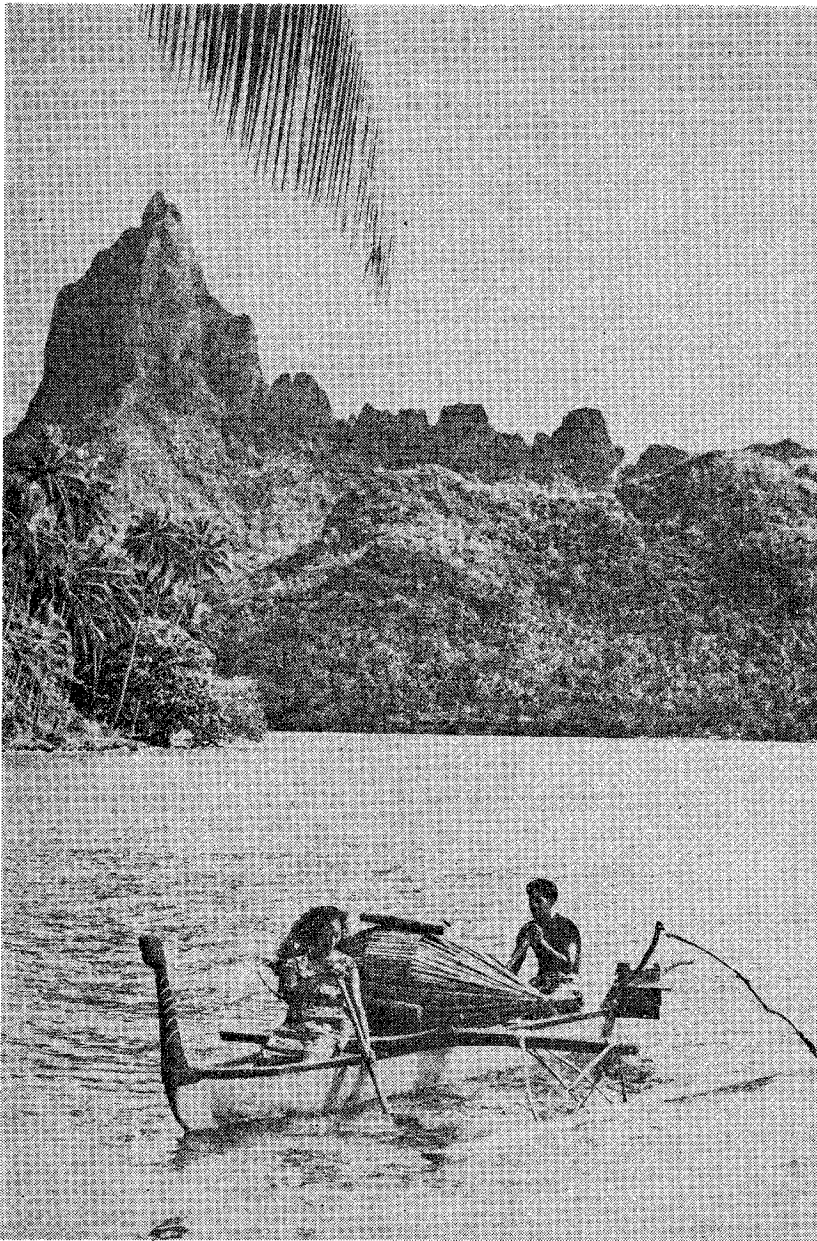
マーシャル群島

トケラウ群島

或科学者はミクロネシア人はマレー系アジア蒙古系、ポリネシア系の混血だと主張している。

(三) ポリネシア人

これはハワイ諸島から南下しニュージーランドに至り東方に向ってイースター島に亘る三角形内に散々する島々に居住す



る民で大きな火山島から小さなさんご島環状さんご環など数千に及ぶ、主な群島は

クック諸島 ハワイ諸島 トング諸島
島 サモア諸島
フランス大洋州

このポリネシア人はその性格に於て、アメリカ土着のインディアン人と多くの共通点を持っており又古のアジア民族的な一面も備えていると言われるがこれは日本人とアメリカインディアン人といろ共通点があることから、この島々がミュー大陸陥没による山々の頂点でその一部族が日本へもアメリカ大陸へも渡ったなどという一説も出て来るが、聖書及びモルモン經に基く、マナセ族及びニワァイの民の散乱は私たちの研究によつてだんだんと明らかに來されて來るのではないでしようか。

これらの民の間に伝統的に口授されて來た系図は八十代位迄遡ることができ、それは年代的に見てもハゴツの民に つながるのであります。

参考迄にモルモン經アルマ書第六十三章から引用して見ましよう。

。判事治世の三十七年目、五千四百人の男子とその妻子とから成を大きな一団がゼラヘムラを去つて北の地へ移った。

このころにバゴツと言う非常に好奇心の強い人が居たが、デソレションの地に近いバウンテフルの國境の所へ行つて自分のために非常に大きな船を造り、北方

の地へ行くあの狭い地峡の近所でこの船を西の海へ進水させた。そこで多くのニワァイ人がこの船に乗り、多くの食糧を携え多くの女子供をつれて北の方へ船出した。これで三十七年目は暮れた。三十八年目にバゴツはさらに何隻かの船を造つた。最初に造つた船が帰つてくると、また多くの人々がこれに乗り多くの食糧を携えて北の方へ良出した。ところがその船と乗組の人たちは行方不明となり、その後何の音沙汰もなかったから、われらは人々が海に溺れたであらうと思つてゐる。今一隻の船も出帆したが、これもまた行方知れずとなつた。この年に北の方の地へ移つて行つた人は多かつた。

あの狭い地峡の近所でこの船を西の海へ進水させた。この記録によつてニワァイ人がハワイに渡つたことは信じられることですが更にマオリの伝説によつてもつとこれがはつきりして來ます。

マオリの伝説は下記に符合する三度の移民を告げております。

- A リーハイのアメリカへの航行
- B アメリカ大陸からハワイ島への航行
- C これらの島々からニュージランド

への航行

マオリは彼らの民族的血統を高く評價して、彼の系図を注意深く保存するように教えました。高度に訓練された専門家の記憶に保存されたこれらの系図はハワ

イ人とマオリ人が共通の先祖から出てゐることを証明しております。マオリ人はハワイ人と同様リーハイ人の子孫で契約の民イスラエル人のすべての祝福の世嗣であります。マオリ人は次のような伝統的な言葉を持つております。

「タヒティヌイ」「タヒエロア」「タヒティバナホマホ」その意味は「遠い道程」「より遠い道程」「更にもっと遠い道程」これは彼らの先祖が或処からニュージランドに渡つて來たことを意味してゐるように、次のように解釈されます。ハワイキからニュージランド迄の航行は遠い道程であり、又大陸からハワイキ迄も又遠い航行であり、更に彼らの原住民から大陸迄は遙かな道程であります。

この最初の郷土は丘と山地でありました。これはリーハイのパレスチナからの航行と見なされます。概して彼らは、大陸からハワイ島への移民をハワイの東方の兩村の接統点を渡つて來たとしております。ここに二種類の人種「キリテア」(白皮膚)及び「マナウリ」(暗色)が居りました。彼らが去つて來た「パ町」は南大陸の北端でありました。伝説によるとそれは非常に大きな町でありました。

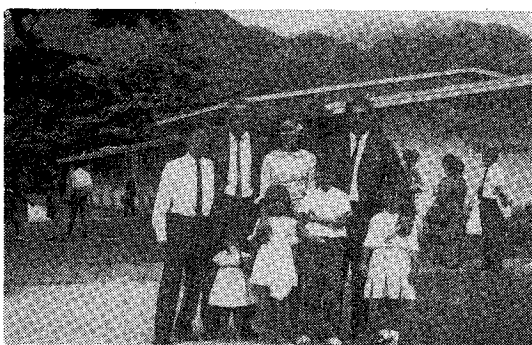
三度の伝道でニュージランドのマオリ人及びハワイ人と親しく交わり完全に彼らの言葉を以て自由に話をしたジョージ・ボウル長老は、老マオリ首長によつて述べられた事を告げております。即ち彼らの先祖は狭くて細い一条の線によつて連

結された海に囲まれた二大大陸に住んでいました。そしてこの二つのどちらの大陸にせよ、もし人が子供の時代に旅を始めても一週りしようとするればそれが完成する迄には恐らく老人になつてしまふであらうと言われました。

ハワイにも同様の伝説があります。ポリネシア人は昔その先祖たちが住んでいたポリネシア搖籃の地をハワイキと呼び巴拉ダイスのような処でそこには大神殿(ハレクラ)が在り神々が住んで居られた。これは大陸でハワイキはカヒキク、又は東都タヒチに在り、タヒチとは今のタヒチ島を指すのではなく、遠方という意味で或はヒチとは東方、日出づる国という意味であります。今日でもカイルアには昔のハワイ人のヘイアウ(神殿)の跡がありその前には祭司たちが祈りを捧げた塔(材木を組合せたものでこれは後から當時の通りに再建されたもの)が立つております。

ポリネシア人の先祖たちはワレ・ワナングと呼ぶ神聖な学びの家を建てて、そこで靈的なことと肉体的なことを含む、すべての神聖なことを教えていました。主の靈感と彼ら自身の先祖たちを誇りとする誇りを以て自分たちの歴史を学び系図を暗記したのであります。

ハワイ人の間にある多くの伝統、系図歌及び物語りはうらやましい迄に首領たちや祭司詩人たちの間に保存されて代々伝えられて來ました。多くの家族や勢力



スポーツ兄弟の家族と私

を競える各王朝が彼ら自身の記録を保存してきて、今日それら個々の記録を相互に比較することができるのであります。

真の系図の専門家は若い時に学生として選ばれて神聖な学校に於て学んだ者であります。この目的の為に善良な家庭の若者たちが選ばれました。即ちすぐれた記憶を持った首領階級たちであります。

この最も必要な資格は、これらの若者たちが集められて、そこで系図の専門家又は達人が或一定の長さの伝説、よく知られた物語り、又は地方の教訓的話、英雄マウイ物語りの如きものを語るテストによって確認されるのであります。この話を若者たちで只一回だけでよく記憶して、悉く繰返し語る事のできた者は、

その種族の歴史と系図を含む伝統伝言者として教育されるべき生徒として選ばれたのであります。これらの訓練された、

達人たちは昔からの系譜の正解者であります。このような人々のみが遙か遠い先祖の結婚のような遠い昔の世代の詳細を与えることができたのであります。普通の人は十代又は二十代以前の事を詳細に伝えることはできませんでした。

すべての系図の事柄を絶対的に正確に伝言する為に大なる決意が払われました。もし達人が系図の伝言に誤りを犯したら大いなる不幸を招きます。即ち腰々不運な達人はその為に死んだのであります。もし死刑とならずともマオリの神たちは必ず彼を罰するでしょうから彼は極めて不運となったのであります。達人たちは、その秘密を厳守したので屢々一般的な間違いが是正されずに述べられました。遙か遠い系図又はわずかしら知られていない子孫の系譜は聴衆が村の会合のように統一された団体でない限り公衆の前で討議又は口述されませんでした。然し極稀には例外もありました。他種族の者がおる前では決して口述されませんでした。

熱心なハワイの歴史及び伝統の研究者であるフォナダ判事は彼らの伝統の典型的なものとして、ハワイロアの伝説を引用しておりますが、これはケペリノ及び現在最も名の知れたハワイの考古学者カマカウの二人の原住民によって、

編集されたものであります。この伝説には、地球の創造に就て独立した物語りがありますが、それはこの原住民が、ここに定着する前に創世記に含まれているような記録を持っていたに相違ないことを示す迄創世記に近似しているのであります。この伝説の中には、エデンの園、情落、カインとアベル、エノク、ノア及び洪水、シエム、アブラハム、イサク及びヤコブとその十二人の息子たちが見られるが、勿論これらの人物はハワイ語の名称で呼ばれております。最初の人は高く美しく威厳あり、その妻も同様でありました。昔の歌では彼は木から落ちた首領又は木の為に落ちた首領と呼ばれました。彼らの息子のセスは敬虔な人で真の礼拝者の先祖でありました。この系図の七代目(エノク)はその時代の最も卓越した虔な人でありました。だから彼は生きたまま地上から取上げられて死にませんでした。

スウ(ノア)は現在の全人類の二番目の先祖となりました。彼は三人の息子を保持していました。シエムはノアの三番目で最も気に入られた息子であり、純白の民の先祖であります。アブラハムは第二のノアと呼ばれ彼の故郷を去りました。彼の奴隷の女によって荒野に放浪する民の先祖である息子の父となりました。他の息子イサクは現在のハワイ人の先祖である強大な種族の先祖となったのであります。彼の最愛の子ヤコブは十二人の子

供を持ち、その最年少者よりハワイ人が生じたのであります。時の経過と共に彼らは指導者に伴われて遠く彼らの郷土を離れて来たときヒチアン及びハワイアン

の両方の伝説が言い伝えておるのであります。ハワイロアの子孫はハワイ家族の先祖となり、その物語りはモルモン経のハゴソに非常に似ており、彼はハワイ島に最初に定着した移民の指導者でその島は彼の名をとったのであります。

第一回の神殿訪問の時、数名の日本人聖徒の指導者たちを祝福して下さり私たちが帰って来ると間もなく昇夫されたパイルハーバースターキ部の祝福師、前アンドラス伝道部長夫人のお父さんパーカー祝福師はハワイ王族の出身と聞きましたが日本人のような顔をしておられ、他人のような感じがせず非常に親近感を感じ、お母さんは白人なのに又不思議に日本人的で私は自分のお母さんのような親しさを感じましたが第二回訪問で逢はれた人も皆、異口同音にそう言われるのは驚き、同じマナセの血統によるのではないかとの感を強くしました。

今日の神殿訪問の或日、セッションが終ってから、昔からライエの海岸で行われて来たフキフィラを見に行く機会を得ましたがその時、海中に入って大きな魚をつかんで来た土地の古老が伝統の衣裳も美しく、その魚を高く掲げて私共に挨拶しに来ましたがその顔は日本人の漁師そっくりでとても親しさを覚ええました。

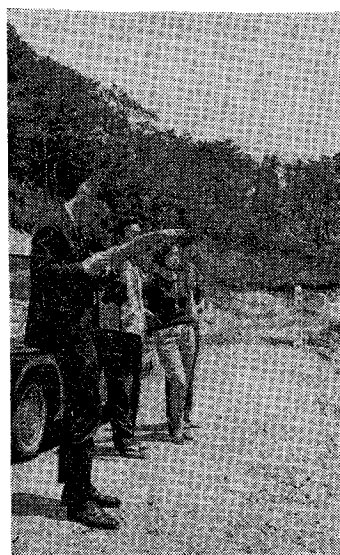
福島で活躍する石坂晃一長老から田中副伝道部長への手紙

拝啓、暑さも日増しに加わるこの頃ですが如何お暮しのことでしょうか。当地福島にては、気温も高まり、さながら蒸し釜の上に居るような日々があります。

さて、福島市の伝道もやや成果をみる事が出来、私たち宣教師一同は心楽しくしています。三月二十六日、早川兄弟が会員になって以来、しばらくバプテスマはなく、私たちも非常に伝道について反省をしなければと思っていましたが、それを反省するのにもかかわらず、十八日には堀江夫妻がバプテスマを受けられました。続いて七月二日には渡辺夫妻、奥村姉妹、鳴原姉妹、



6月15日の日曜学校19名出席



山の中まで伝道に行くことも

が来られるように望んでいます。できれば誰れか兄弟が御家族同伴で来られればと、夢みているのですが、都合がつかず、もし無理でしたら、外のどなたでも家族として、模範を示しに来て下さい。もう一つの嬉しいことは、東京第一支部時代にバプテスマを受けた石井兄弟が、現在福島県庁に居り、教会に出席しています。十数年も教会に来ていませんでしたけれども、彼はモルモン教会が福島に出来たことを聞き帰って来ました。まだ神権を受けていませんが、彼はこの間聖餐会にて涙ぐましい話をしてくれて、彼の証の強さを示してくれました。私たちはすぐに、彼の家族に家庭集会をはじめましたので、来月中には改宗できるでしょう。

彼が教会に戻ったことは、大きな祝福で、幸いにも渡辺夫妻、早川兄弟が同じ事務所であり、私自身、神のお恵みであることを感謝しています。現在、堀江兄弟、姉妹は五十七才という活発な時期であり、会社の経営者であり、彼と姉妹

は会員、求道者から大きな信頼を得ており私としても、いつも助けられています。

家族の改宗は困難であります、その改宗の喜びと、奉仕した喜びは、私には筆には書き表わすことはできません。福島の人々は忍耐強いのです。それだけに勉強もよくします。私も福音を正しく伝えるために、みたまの力に励まされること数多いです。求道者か宣教師か解らない程、とけ合うことしばしばです。すでに堀江兄弟は、不活発対策を備えており、フェローシップ家庭訪問を会員の信頼の上に策こうと



バプテスマ会はお風呂屋さんで開きます

計画しています。アルパにしてオメガが組織的にはまだないのですが霊的には、彼らの心はうるおっています。今も電話があり、昼食の休みを利用してMIAのカーテンを作るため姉妹たちが選んでおり、その召を知らせて来ています。どうかこれからも、MIAを強くして、そして組織作りのために早く、神権を兄弟たちが受けられるよう、祈っています。とにかく、勉強度は東京地区より強いです。他宗教のメンバーが来ても、逆手を使うことの出来る会員になっていきます。どうか福島に早く組織が出来るようにチャレンジして下さい。福島の会員の喜びの声と共に近況をお伝え致します。

七月十三日

石坂晃一

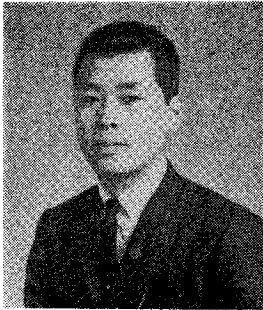
四国で伝道活動を開始

北部極東伝道部とりわけ日本でまだ伝道活動をしていない地方といえば、四国地方があげられます。その四国の高松に新しい支部を開設するべく小松伝道部長の特命を受けたリチャード・チャング長老とロバート・ダベル長老が六月三日から伝道活動を開始しました。

東京西支部から二人の宣教師



上野英夫長老



内山晴行長老

津山家族一家六人で改宗

— 長崎 —

津山家の六人の家族は、五月十四日長崎支部で四カ月あまりの家庭集会をへてバプテスマを受けました。

この家族はみな助け合う精神にたけたすばらしい心を持っておりませんが、たまたま二回目のレッスンが終り、大阪大会から宣教師が帰ってみると、お母さんが重病で入院するという事件がありました。それから宣教師が病院と、家にいる子供たちのために道う様になり、お母さんの回復を待つて一家全員がバプテスマを受けることができました。

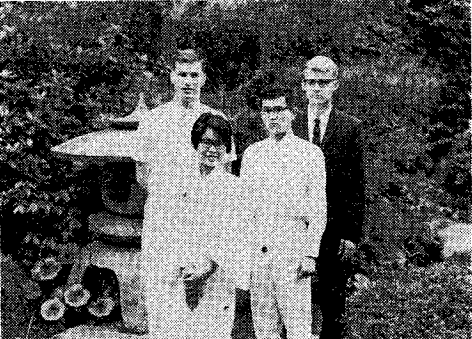


桐林家族バプテスマ

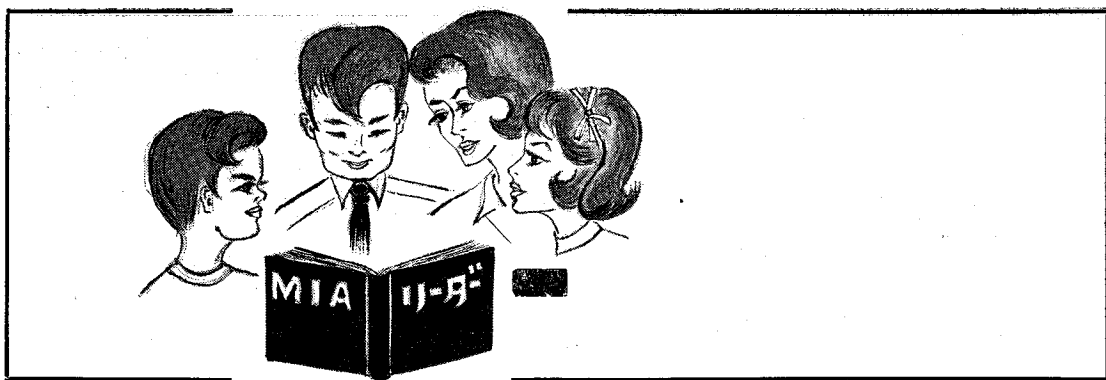
— 広島支部 —

桐林兄弟と姉妹は、五月二十一日広島支部で一カ月半の家庭集会の後バプテスマを受けました。

桐林兄弟は広島にある大きな建設会社の設計技術者として勤め、桐林姉妹は高等学校の英語の教師として勤めています。そして、この二人は広島大学に在学中に知り合い、三年前に結婚されたそうです。現在一才になる赤ちゃんと三人の家族です。彼らは神とイエス・キリストと聖霊と今日この地上に福音が回復されていることを証しております。そして、ハワイ神殿に必ず行きたいと話しています。



前列 桐林兄弟と姉妹



皆さんが初めて教会を知り、MIAに参加されたときのことを、もう一度思い起して下さい。どうぞ目を閉じて下さい。はい、どうもありがとうございます。目を開けて下さい。今皆さんの頭の中に走馬燈のように浮んでは消えた、あの当時のMIAの光景は好奇心と興味を十分に満足にさせてくれたことでしょ。大きな支部のMIAはそれなりに、また小さな支部のMIAは小さい乍らも落ち着いた家庭的な雰囲気にもまれたMIAを経験されたことと思います。最初のうちはMIAと言う集会の目的も分らずに、レッスンはあつて、その後にダンスやコーラス、演劇、スピーチのクラスに分級し、自分の好きなクラスに入つて勉強しそれでMIAの集会が終る。このくり返しが長く続くと、末日聖徒イエスキリスト教会の諸集会のうち、レクリエーションやダンス、演劇等を行う集会をMIAと呼ぶ、と言うように内容そのものによつて集会の名前が定められ、MIAの本来の精神が見失われそうになつて来ている。一八六九年十一月、ブリガムヤング大管長によつて組織された、青年男女の肉体的、精神的発達のための集いがMIAなのであり、ダンスや演劇をすることがMIAではありませんでした。ヤング大管長の考え方はこうであります「これから学生生活を送り、やがて一人前の成人として社会に送り出される会員の一人一人が社会に出たときに、肉体的に

は充分に健康であり、多くのスポーツプログラムを通して持た、不屈の闘志と忍耐力によつて、世の不正や荒波とたたかい、乗り越えて、健全な社会を建設する力を培い、プレーを通して得た協力の精神によつて、お互いに励まし合い、助け合い、団結し合つて協調ある社会を作り出し、お互いに反目し合つたり、対立することのない平和を目指す。また多くのレクリエーションを通して社交上にあつても、他の人たちの模範となるような、エチケットやマナーを身に付け、粗野でない円満なジェントルマンやレディーとなり、神の子供にふさわしい教養を身に付ける」と言うことでした。これらの崇高な目的を持つて組織された相互発達協会ですから、一般の娯楽性を売り物にした集会や催し物とは根本的に異なります。第一は、個人プレーは許されないと云うことです。これは本教会の管理面、組織面に於ける一大原則であります。活動面に於いてもこの原則は忠実に生かされております。MIAのMは、二人以上の人が協力し合うと言ふ意味の頭文字で。組織面では支部MIA会長が親密な連絡のもとにプログラムを計画し、各活動一つ一つも全てチームプレーにより運営されます。皆さまもすでにお気付きのことと思いますが、レクリエーションにしろ、スポーツにしろ、MIAで正式に採用しているものの多くはチームプレーであり、個人的競技や種別はあまり多くありません。

りません。しかもその場合でも、多くの制限や標準を設けており、総括的にはチームプレーの形をとつております。第二は、目的に達するまでの過程(道のり、または(プロセス))に特徴があります。一般のスポーツを例にとると、ルールや秩序を大切にすることは変りありませんが、教会では、各参加選手の一手一動がすてに教会の標準に入っていないなくてはならず、また他の人の犠牲によつてある特定の人やチームに栄光が帰されると言つたことはありません。個人個人の努力が積み重ねられると言つても、その努力のレンガ一つでも教会の教えに反するものであるのなら、見掛け上の結果―目的―がよくてもほめることはできません。具体的に例を挙げるのなら、ダンスフェスティバルに、優勝するために、夜おそくまで練習したり学校や会社を休んだり、あるいはMIAの標準を守つていない選手を出したりすることは眞の優勝とは縁遠いものであります。第三に要求されることは、模範であります。立派なスポーツマンは、私生活に於いても品行方正であるはずですが教会に於いては、特にその点が強調されます。神学的知識がどんなに深く、ダンスを踊らせたなら第一人者と言われていても、他の人たちに対する応待の仕方、日頃の生活態度に後指を指されるようでは何の目的でMIAに出席しているのか、訳が分らなくなりません。

以上のべた、MIAは私たちが真に完成された人間、神の息子、娘たちになるための最も効率の良い利用機関であることの簡単な説明にすぎません。それではもし、皆さん方のうち、MIAにほとんど出席していない方、失望を感じている人がいるならば、どうぞ心の中で右手を挙げて下さい。どうもありがとうございます。それでは私が皆さんの代りに、その理由を申し述べて弁解してみよう。①年令的にみて今の若い人たちだけの集会には馬鹿らしくて入れない。何か子供っぽくなっている。昔はもっと大人らしい集会であった。②出席したいのは山山だけど、会社の仕事や他の用事もあるの、とても時間がさけない。③出席しても、もう学ぶものは無くなってしまった。プログラムは毎年同じだし、もっと新しいことをやればよいのに。④夜遅くになると家の人たちが心配するし、明日の仕事や学校にさしつかえる。

皆さん方の理由は大体この四種のうちのひとつかあるいは、その組み合わせたものと思われまふ。最初の年令に就いて考えてみましょう。確かにMIAは若い青年男女のために組織されたものではありませんが、年令的に区分されるべきものではありませんことは、私たちが神さまの息子や娘である限り当然のことで、組織上年令別グループを設けるのは、この世で定められた他の社会上の制度や肉体的、精神的発達の平均的区切りと調和させるため

の手段です。確かに五十才の父親と十八才の息子とを同じ尺度で測るならば、お互いに能率の良い発達をすることはできませんが、本伝道部のMIAの発達段階に応じ、遂次グループを細分化しつつあり、年令にするアンバランスも、解消される日が間近いと思われまふし、卒先して高年令者が、MIAに出席される何らそのMIAはさらに発展し、グループも細分化され、やがては年令差による偏見もなくなるでしょう。二番目の口実はまだMIAという宝の価値を見出さない人たちです。この人たちは、ある尺度で、ものの価値を主観的に比較し、より高い価値のあるものに身をひかれておられることと思います。数回連続してMIAに出席されると、そこから得られた価値が出席しないで、他の仕事をして得た価値とどちらが尊いものであるかがすぐに分ります。三番目の口実を持つ人たちが、もしいたならば、誠に不幸なことでありまふ。MIAに出席しても、得られるものは無いと信ずる人は、その人の知識や技術の程度が、MIAのそれ以上にあるということではなく、長い間MIAを消化しないで過したために、すでにそこから未知のものを吸収しようとする消化力を、失ってしまった訳で、一般の社会でも、そのような向上のない態度に置かれているのではないかと、言う疑いを充分に懐かめてくれます。「なまぬるい水」はもはや使い物にならず、捨てられない

前に、再度自覚すべきであります。最後の理由は新しい会員の方に多いようであります。これこそMIAの役員が、その事情をよく調べ、支部長とよく相談されて、家庭訪問等によって、御両親の不安や心配を取り除いてやるべきであります。

MIAはMIA（ミューチュアル・インプループメント・アソシエーション）の名の示すごとく、教会本来の目的を具

体的にキャッチフレーズ化した機関と言える程、その活動は明確に定議され、真の目的は高く掲げられております。MIAの発展するところ、そこに大きな、神の御業の現れがあることを強く証し申し上げます。これらを全て御子主イエスキリストの御名により申し上げます。

アーメン

伝道部MIA管理会長 佐藤襄二

沖繩地方部

MIA 演説大会

全国の愛する兄弟姉妹初めまして。

ここ沖繩では綺麗な花が咲きみだれ、外形的には春たけなわですが実質的には夏です。セーターでも着ていようものなら笑います。ところで私達沖繩地方部MIA会長は今までYMしか存在して居無かったのですが、今度YWが出来て二人ともフアイトに燃えています。地方部といっても二つしか支部がなく、二つで沖繩支部みたいなものです。私達は、無言実行のスローガンを掲げ沖繩地方部MIAのために、御国建設のために骨身惜しまず働くことを互いに誓いました。本当にスローガンに恥じないよう努力したいと思います。

四年前午に引かれてやっと出来た

ばくが長老の職を授かりまた地方部YW MIA会長に召されるとは夢にも思いませんでした。私は誰が私を選びになったかを知っており、そのために何をなすべきかも知っています。それで絶えず温故知新の念を満たし、人間が幸福であるために遅くべからざる条件は勤勞である、というトルストイの言葉を忘れず何事を成すにもアルマ書三十七章三六〜三七節の聖句を常時思い起して、私自身の働きを遂行したいと思っていますのです。私は今自分の感じている幸福を表現出来る言葉がたとえゴビ砂漠に有ろうとナイアガラの高の底に有ろうと取って来たい心境です。皆さん讃美歌の二三五番の実現はもうすぐです頑張りますよう。

(四月二日)

沖繩地方部YM MIA会長

謝花良康

扶助協会 レッスン

社 会

家庭で福音を教える

アルバータ・H・

クリステンセン

第八課 徳から徳へ

参考…神権とあなた（メルケ

ゼデク 神権者用レッ

スン一九六六年第一八

課）

目的…徳から徳へと霊的に成長することによって私たちが完全になれることを指摘する。

序

各人の霊的成長に関するこの十二月のレッスンはクリスマスMASの時節に丁度関連がある。全キリスト教団が救い主の生涯と教えを記念するこの時期に、私たちは日常生活においてもっと霊的になる必要があることを思い起させられる。末日聖徒にはクリスマスにイエスキリストの使命と教えをよく考えるもう一つの理由がある。それは地上に福音を回復した末日の予言者ジョセフ・スミスが十二月に生れたからである。

信仰と霊性

霊的なことに關するどんな討論においても、神への信仰がその基本である。何故なら霊性と信仰とは互に関連があり、互に依存しあっており、不可分のものだからである。この二つは啓発と力の輪を構成している。私たちの信仰が深まるにつれて霊的な事柄をより感知できるようになり、霊性が増すにつれて信仰が強められ、私たちの人生における指導的な影響としてより確固たるものになるのである。

この信仰が霊的な力となる程度は、聖霊によって喜んで導かれることと、神の誠命を喜んで守るその程度によるのである。

徳から徳へ

イエスは神会の一員として前世で御父と共に居り、しかも人類の中に生活するために肉をもつて生れ給うたことを私たちは知っている。

聖典によつてイエスが徳から徳へと進歩したことを知るのには興味のあることである。「イエスはますます知恵が加わり、背たけも伸び、そして神と人から愛された」（ルカ伝二章五二節）



「ヨハネ（使徒）はその記録の中で、幼な兒から大人になられるうちに實際自然の発達をなさったことを証言している。『またわれヨハネ、彼の最初に完全を受けずしてめぐみにめぐみを受けしを見たり。……ついに完全を受けしを見たり。』」（ジェームス E・タルメージ著、基督、イエス一九頁（英文）より。（教義と聖約九三章二一―八節参照）

全末日聖徒は予言者ジョセフ・スミスの生涯と業績をよく知っているが、彼もまたどのようにに徳から徳へと成長したか注目し値する。後に彼が霊的に満たされる資格を持っていることが、彼に霊の導きを天父に求めさせた信仰によって、幼いときにみられるのである。

予言者の生涯を研究してみると長準備の期間があったことがわかる——天使モロナイが何度も訪ずれた最初の示現から古代の記録の翻譯の完成まで。天使の指図や神の勧告に喜んで従うという予言者の態度は天父の御

心といつも調和していた。「彼が神の仕事を始めた頃は、ウリムとトミムの助けによって啓示を受けたが、彼が霊的に成長し力を備えてくるとその助けを借りずに彼自身が適切でかつ有能な受信器となったのである。その後彼は外部からの助けなしに主に尋ね、答えを得たのである」(ジョン A・ウィヅソー…わかりやすい宗教八〇九頁)

我々が期待されている事

天父は私たちが霊において、完全になるよう望んでおられるが、このことは究極的には達成されるが、決して一日で完全になるとは期待しておられない。この目標に向ってたゆまぬ努力をすることが完成への道となるのである。ただちに完全になれるなどとは私たちも思っていないが、しかし不完全さを克服して徳から徳へと進歩することが可能なのである。私たちの人生のある場面においては、特定の誠命に完全に従うことによって今すぐにも完全になることができるこのように一歩一歩、徳から徳へ、神の啓示したもうた言葉や予言者の訓先を受け入れ、これらの誠命を喜んで喜ん

で守るとき、私たちは霊的に成長するのである。

質問

- 1 私たちの両親の時代よりも、今日の方が個々の生活の上で霊的なことがより必要であると思いますか？
あなたの答えの理由をのべなさい。
- 2 霊的に成長した人に与えられるこの世での報酬は何か？
- 3 あなた自身が現在持っている神への信仰は五年前より強くなっていますか？
- 4 経験が信仰を静止させず、むしろどのように信仰に波を起させるか？

信仰の質

一人の人生で信仰が強くなったり弱くなる時期があることは次の実例研究の対話で明らかになるようである。

A 婦人…「あなたのような信仰を持てたらと思います。」

もしあなたのような信仰が私にもあったら、私も毎週教会へ行くのですが……」

B 婦人…「もし教会へいらっしやれば、きつともっと強い信仰が持てますよ。私の

信仰がどうして強くなったかお話ししましょうか？」

A 婦人…「あなたの信仰もいつも今のようには強かったのではないとおっしゃるのですか？」

B 婦人…「信仰はいつも持っていたと思います。でも必ずしも今私が持っているのと同じ性質の信仰だったとはいえません。今のよういつも強く持ちつづけられるよう望んでいます。それについてお話ししましょう。約三年前でした。私は霊的に進歩していないと感じました。福音が真実なものだと知ってはいながら、いわばうすい信仰の谷間に生活しているように感じました。今思えば、私の信仰は栄養が必要だったのです。現在では前よりも霊的にずっと強くなったと感じています。」

A 婦人…「あなたの信仰をこんなに強くするのに一体何をなさったのですか？」

B 婦人…「まず当時の私がしていたことを検討してみ、教会への出席がルーズになっていたのに気がつき

ました。良い婦人たちと交際していましたが、その人たちは宗教的ではなく、霊的なことには全く関心のない人々でした。私はこれらの事実をリストにして、次にそれを直し始めました。」

A 婦人…「具体的にどういうことをなさったのですか？」

B 婦人…「①私の友人を新しくして、教会に活発でしかも私との間には共通点がたくさんある以前の友人とつきあうようにしました。」

②聖さんを受けるときの約束、つまり御子の御名を喜んで自分の身にうける、御子を忘れずその誠命を守るということを覚えて教会へ定期的に出席しはじめました。そしてこれらの誠命に関連のある私の行いをよく考えてみました。今では数多くの誠命を行動に移しています。③他の人ののべる証詞を聞いて私もまた、私自身は何も言わず、答えもしませんでした。他の人が



感謝をのべているのと同じ恵みを私も受けていることに気がつきました。扶助協会で証詞をのべることによって力づけられより強い確信を持ってついに聖さん会で証詞をのべる勇気を得ました。

④教会で聞いた福音についてもっと知りたいと思い、図書館で今まで読んだことのないたくさんの方の教会に関する本をみつめました。以来多くの時間をさいてこれらの本を読んでいますが、その霊的力におどろいています。」

A 婦人…「強い信仰というのはそんなに多くの修養が必要なのですか?」

B 婦人…「それはあなたがどんな信仰を持ちたいかによって違うといえるでしょう。神に対する深い、しかも長続きする信仰というものは多くの努力と献身が必要なのです。」

A 婦人…「その信仰は今あなたがしている努力と献身に価値を思いますか?」

B 婦人…「私にとっては最も報いの多いことです。そして近ごろ高い山へ登って始

めて高い所の新鮮で気持ちの良い空気を吸ったときのような感じがときどきしています。いつも福音は真実だと信じてはいましたがなまぬかった昔のことを後悔しながらふりかえてみます。今では信仰のない人には全くわからない、低地のなみの生活にはない霊のブイ(浮標)のようなものを感じています。」

クラスの活動

B 婦人があげなかったことでより強い信仰を築くと思われる行いをいくつか提案しなさい。

人の信仰を強め、あるいは人の信仰の質に影響を与える他の場合について話し合いなさい。

霊のブイ

イエス・キリストに従う人の特質であり、信仰を持っていない人には見出せないというこの霊のブイとは何であろうか?

それは人生の浮沈に直面する勇氣を持って人の一生に指針を与える信仰のコンパスである。それは悲しみに耐える希望の表現であり、死の障壁をこえることのできる後の世に対する知識である。それは互に助け合う人々

をなくさめあう心の平和である。それは一四才の少年が知恵を求めて森で祈るよう導びいた信仰であり、手押車を大平原や山道を何マイルも越えて不毛の谷へと押し続けた信念への献身である。人生に与えられる恵みに対する感謝に満たされた謙虚な人々の証詞である。それは勝利を得、歎喜しているシオンの讃歌である。それは神の誠命を守る人は日日の栄の王国で永遠の家族の栄光を知ることができるといふ知識である。これが末日聖徒が全世界の人々に輝かすことのできる霊のブイである。

クラスの活動

前記の話から霊のブイとして基本的なものを以下に挙げる。他にもあったら列挙しなさい。

- 信仰 心の平静さ
- 従順 信念への献身
- 勇氣 証詞
- 希望 感謝の念
- 永遠についての知識

霊的なクリスマス

クリスマスの忙しそうな準備や物質面のみが強調されているのをみてクリスマスと霊性とは一体どんな関係があるのかと疑



問に思う人があるかも知れない。

それは次のような関係があるのであるキリスト教徒の祝うクリスマスというのは最も意義深い霊的な出来事―神の御子の誕生―に基づいているのである。

福音は霊的な恵みと同時にこの世的な恵みをもたらすよう意図されたものではあるが、物質的なことや目に見えるものが極端に強調されているとき、霊的な世界に盲目になり、神の御言におしになり、より豊かな生活

の喜びに無関心になることがある。

クリスマスは季節は大人が真剣に自分の生活が動いている方向を評価し、自分にとって大切な価値を発見する刺激を与える。

あなたは何を礼拝しているか? 今日多くの人は金の子牛を拝んでいる。つまり単なるこの世のものの追求はしばしば幻滅とさらに道徳的な災いへと導くことを人に悟らせるのである。

クリスマスの季節は母親が子供に宗教的な信仰を植えつけるのに絶好の機会を供給する。イエスの誕生の情景、御子キリストの誕生を先づいた天使の声の物語を再び聞き、ベツレヘムに生れたイエスが人類の救い主であるという事実を人々の信ずる心は迎えるのである。このことを子供たちの心の中心に植えつけることがクリスマスの楽しいお祝の期間の母親たちの関心ごとである。

クラス活動

ホリデーシーズンの物欲的な行いにおぼれずにクリスマスの最も大切なテーマを守ることでできる方法を考えなさい。

どうしたら子供たちの心を真のクリスマス精神に向けさも、キリストの教えが子供たちに話しかけ、以下のようなことをするようすすめることができるか？

- 1 調停者になる
- 2 思いやりのあることを考える。
- 3 他人に親切にする―自分たちの特別な友たちでない人々にも親切にする。
- 4 自分の信ずることに忠

実になる。

- 5 どこにあっても悪いこととや不義に対して勇氣をもつ

- 6 ベツレヘムに生れたイエスが主キリストであることを心から信ずる。

リボンできれいに結んである贈物やきらきら光るツリーのかなたを見通す目を持っている人には、クリスマスの本当の意義が真実と美の中に表わされ、霊にとつての広い地平線があるのである。この事実に靈感された母親は包装紙に包んでクリスマスツリーの下におくことのできない贈物の中の贈物とは、キリストであり、救い主であり、人類の贖い主であるイエスの犠牲によって受けられるようになった不死不滅の贈物であることを子供たちにわからせることができる。

母親がクリスマス準備の忙しい時間をさいて子供たちに不思議な星の話や、祭の後神殿の中でラビと伴にいた少年についてもっとよく知るように教える家では家族全体が霊的な気分にならないだろうか？

今日の戦争と緊張の世界にあ

って大人を支持すると同時に、若者を強くする信仰を持つ必要がある。

戦地に出発していく国を愛する息子に母親はこう言わないだろうか？

息子よ―おまえがもし たった一人で異郷の丘に立ち

核兵器におびやかされ 故郷を思いつつ

白く静かな夜をすごす

冷笑に耐える必要もなく

疑いというものがヘロデの

力より深く切り込み

懷疑的な世界がいかに暗く

なるものか

試してみても必要もない。

羊皮紙のページをめくり思 い出をたどる

内海の浜辺のやさしい足ど

り。

ヨルダン高原の群集のあと

に続く

人々はその人の癒す力を知

り

病人がなおり死人がナイン

で再びよみがえるのを見た

ナザレ……ベツサイダ……

エルサレムのなつかしい町で

の一つ一つの言葉は、

信仰の手本となり

郭輪は輝き明確となる。

エフライムの丘の真昼のよ

うに輝き

くつきりと浮き上った真理

の契約

息子よ、彼の言葉を身辺に

かけよ

おまえも羊飼らのように

眠からさめたとき信仰によっ

て導かれる

羊の群をこえて聞こえる天

使の声によって。

(今日と明日のクリスマスメツ



セージ―アルバート・H・クリステンセン著より)

結論

第三課「個人の標準」及び第四課「さがせ、そうすれば見「出すであろう」がこのレッスンと霊的成長にどのように関係があるか(扶助協会雑誌一九六五年一月及び一九六六年一月号参照)

宿題

一、もしあったら一九六五年度

霊的生活

メルケゼデク神権定員会用レ
ッスンナンバー十八を読みな
さい。

二、できればルカ伝二章にある
最初のクリスマススイブの話を
声を立して読んで、昔風のク
リスマスイブを過してみなさ
い。

三、あなたより不幸せな人に今
までしたことのないような贈
物をしてごらんない。

四、今年のクリスマスシーズン
には霊的な雰囲気をつくり、
人々の心を新たにするのに役
立つクリスマス音楽で家庭を
なごやかで楽しいものにしな
さい。

クラスリーダーのための注意

このレッスン中のアイディア
や実例は全て中心目的に役立つ
ものである。しかしクラスリー
ダーは自分の教えるグループに
適するレッスン材料を用い、あ
る点を強調し、他を省いてもさ
しつかえない。

教義と聖約

ロイ・W・ダクシイ長老

七五課 光と真理

(テキスト…教義と聖約九三…

二四—二六、三〇—五三)

一九六一年二月

目的…末日聖徒の婦人は啓示さ
れた真理に従ってその生
活を形作ること。

序文

私たちは先の二つのレッス
ンに於いて教義と聖約九三章が救
主と人について重要な理解を与
えていることを学んだ。

真理——絶対的

九三章のこの驚くべき啓示か
ら私たちは次のような真理の定
義を学ぶ真理とは、事物の現在
あるがまま、過去にありしま
ま、未来にあるがままの知識な
り。およそこれよりも過ぎたる
もの、及ばざるものは太初より
偽り者なりしかの悪魔の霊気な
り。(教義と聖約九三二四—二
五)

真理とは知識である！ 真理
は不変であり絶対的である！

真理は決して変らない。人は自
分の持っている真理の概念を変
えるかも知れないが真理そのも
のは決して変らない。それは過
去にあったものであり、現在あ
るものであり、未来にも続いて
あるものである。他の啓示には
「真理は常住無窮なり。」と表現
されている。(同じく八八・六
六)

科学者たちは真理を相関的な
もの即ち変化するものであると
考えている。今日真実とおなさ
れることも明日は変わるかも知れ
ない。物を探求することについ
てのこの信念は人が研究を続け
てゆくことが出来るために必要
なことである。科学者たちは他
の発見を基礎としてその上にま
た別のものを打ちたててゆく。
このようにして真理の附加的な
断片が発見され進歩してゆくの
である。

しかし一方予言者ジョセフス
ミスとその後継者たちを通じて
回復されたイエスキリストの福
音の中に含まれている宗教的真
理はどうだろうか？ 人は啓示
を通じて神と彼らとの関係につ
いて知ることが出来る。人を取
りこむ環境はその答を与えては
くれない。それは啓示されねば

ならない！ この真理をうけ入
れるならば次のような理解をも
たすだろう。予言者は云って
いる。

私たちは聖なる書を手にと
り、それが直接の靈感によって
人のために与えられたことを認
める。私たちは神がときみちた
ときに人々をみもとに連れてゆ
き、その御子イエスと共に共同
の継承者となることが出来るよ
うに公平で聖なる律法を与える
ためにまた、彼らの行いをとり



しまるために、また直接的な方
法で彼らをおらびしために甘ん
じて天より語られ人類について
の御意志を宣言されたことを信
じている。しかし天の直接の御
意志が聖典の中に含まれている
と云う事実が認められるとき、
理性ある動物として私たちはそ
の教えのすべてに従って生きる
義務はないだろうか？ このこ
とが天の御意志であると単に承
認しただけであって、もしその
すべての教えに従わないならば
恩恵はいつか私たちに与えられ

ることがあるだろうか？ 私たち

がその教への真理であることを認めて、しかもそれに従わな
いとき、私たちは天の父を侮辱
してはいないだろうか？ 私た
ちは天が私たちに与えられたと
ころのすぐれた智恵を知ってい
ても、このような害になる道を
辿ることによって私たち自身の
知識よりも低いことをしている
のではないだろうか？ この理
由で私たちが直接天から与えら
れた啓示をもっているなら、そ
れらの啓示が勝手に変更される
ために与えられたのでは決して
ないことは確かであり、また天
に公平と云うものがあるなら勝
手に変更する者の頭上に必ず神
の怒りと復讐が与えられる。

(DHC 一・一・11)

クラス討論

真理を認めはするがそれに従
った生活をしない場合の結果を
討議しなさい。

今までにあらゆる真理が啓示
されてきてはいない。或る真理
は人が信仰に欠けているために
確示されず保留されている。

(アルマー二・九一—二) 信仰
箇条第条は神が「なお今より
後、神の王国につきて多くの偉

大にして重要なことを啓示し
給うことを、信ず」と言明して
いる。而し乍ら私たちは日の栄
に於ける昇栄に到達するに必要
な真理はすべて受けている。人
は靈界に於いて更に深い知識を
得つづけまた数千年の間に復活
した人となって更に知識を受け
るだろう。(教義と聖約一〇
一・三三—三四)

真理——差別

すべての知識は等しい価値を
もっていますか？すべての知識
のもつ価値は等しくない。イエ
ス・キリストが教え給うたよう
に神の知恵の本質をなす知識は
皆、福音の中に含まれている。
最高の知識をもち乍ら純情にそ
れをこぼみ故意に無智である者
は英智の上で低い段階におとさ
れるだろう。(タメルージ、ジ
ームス・スー・モルモン主義の
バイタリティ 一九四八年出版
二六七頁英文)

私たちはこの世に生れてくる
前に神と共に住んでいた。私た
ちがこの世にきたのは究極的に
は神のような人になる状態に対
する信仰を通じて進歩すると云
う目的のためである。最も重要
な知識とは救いを教える知識で

ある。もし私たちが努力するよ
う与えられた分野に於いてこの
世の生活をなす上に大切な世事
についてすべての知識を学んで
も、まだ私たちの存在の目的ま
で測らないならば、私たちは最
大の祝福をうける機会を失った
のである。

真理は神より出ず

「真理のみたま神より出ず」
(教義と聖約九三・二六) 人
はどのようにして真理をうけるこ
とが出来ようか？ スティ
ン・エルリチャーズ長老は次の
ように答えている。

真理を習得するためには私た
ちは神の助力を必要とせねばな
らない。神の助力は信仰と祈り
を通じて私たちに与えられる。

信仰は科学の領域外の霊的実在
の世界の容認を考える。信仰は
科学の研究とは異った方法と過
程を含んでいる。信仰はけんそ
んを仮定し、神の力に信頼をお
き、自己中心癖と優越感を抱く
ことを嫌う。深く罪を悔いてい
る心は信仰の種をまくための肥
えた畑である。このような畑の
中で、けんそんな人のあり方を
とり入れない傲慢な自己満足者
の理屈や哲学に挑戦する知識や

理解力がみのり、生命の偉大な
概念についての確信が成果を現
わすのである。(大会報告一九
三九年 四一頁英文)

真理の力

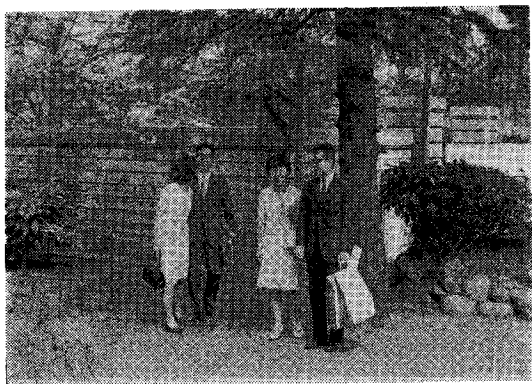
或る宗教的な力が存在してい
る。その力は真理自体を証する
ものである。予言者ジョセフ・ス
ミスは云った。

私は私が持っている人間の心
を左右する力に關してこのよう
に云う。神が人々に教えをおあ
らわしになる際、私が神の御手
の手先になってきたのは教義の

中にある真理の力によるのであ
って、如何なる強制によるもの
ではない。

真理のために準備をする人々
の注意をひき忠誠を促すために
真理には特別な心がある。オル
セン・エプ・ホイットニー長老
は高価なる真珠のアブラハム書
に對し反対意見を書いた他の宗
派の牧師との経験を次のように
話している。

私がかかなりよく知っている牧
師に会った時、彼は私に「どう
して私の意見に對し今まで何も



答えなかったのですか？」と云った。私は「答えましたとも、私はあらゆる国々であなたの意見に答えてきました。しかしそれは新聞に掲載されたことはありませんでした」と云った。彼は「なるほど、それであなたは今までどんなことを云ってききましたか？」と尋ねた。そこで私は答えた。「私はこう云ってきました。それがキリスト教の地で見出されても異教の地でみつけられてもどこで見出されても真理は真理である。そしてそれがモルモン経の中にあるように北アメリカの古代の丘から獲得されてもアブラハム書にあったようなエジプトの地下の納骨堂から出されても、もしそれが真実であるならば、誰がそれを訳しようか」と或いは譏諷の中で多くの不備がある」と真実である。それに伴う内容と霊の性質はその真理、その真実性以外のいづれよりもっと決定的なものである。私たちがシェークスピアの作品を知っているのはそれらの作品そのもののひびきによってである。——それらの作品はシェークスピアのひびきを持っている。文学の専門家はこれらの作品と他のすべての作品

との相違を述べることが出来る。私たちはシルトンのひびきによってそれがシルトンの詩であると見分けることが出来る。バイロンのひびきによってバイロンの詩を、またテニソンのひびきによってそれがテニソンの詩であると見分けることが出来る。では、もし神様が話をされるときしたら、そのみ言葉は誰もまねのできない、また一人の霊的専門家以外の誰でも完全に知ることの出来ない何か、即ち神々しいひびきを持っていない筈があるだろうか？

「彼」は私に賛成した。しかしそれはアブラハムの書についてはなくてどの本でもそれを見分ける最善の方法についてである。彼は云った。「私はどんな作品でもそれが持っている真理を最も顕著に示すものは、それが息吹いている霊でありまたそれが教えること知恵であると云うことを信ずる点であなたに同意します。」そこで私は「このアブラハムの書は私の弁明もまた他の誰の弁明も必要としないこの書はそれ自体のために述べている。この書はそれ自体を弁明している。その言葉の尊厳により、またそれに浸透している崇

高な教えと霊によってこのアブラハムの書はそれが神の書であることを自ら宣言している。」と云った。(大会報告一九二六年四月 三四頁)

光明と真理

神の栄光は英智なり。すなわち、光明と真理なり。光明と真理はかの悪魔を棄つ。(教義と聖約九三・三六―三七)

人の中にある神の本質、即ち英智は光明と真理である。光明とは何か？ アルマは信仰と知識について述べて、信仰は神のみ言葉が心の中にあふれてくる迄冬眠していると云って次のように続けている。

神の言葉がすでにあなたたちの心を大きく開き、種子のように芽を吹き出したのであるから、あなたたちは自分の理解力が増し、自分の頭が開けてくることを感じて知っている。

それならば知識は即ち真実なことではないか。その通り、明らかに光であるから真実である。およそ光は明らかに悟ることが出来るものであるから喜であって、その善であると云うことはあなたたちが知らねばなら



ぬことである(アルマ三二・三四―三五)

光明とは「英智」であり、またすべての真理より過ぎたるものまた真理に及ばざるものを忘れる能力である。(ロムニイ、マリオン・BYU会報一九五一年 五月三一日)

人は英智(光明と真理)であるからその性質の故に真理を見分けることができ、その自由意志によって誤りを排斥することが出来る。人はその罪のめに光と真理をお分ける自己の能力を

くもらせているかも知れない。罪が大きければ大きい程、罪を重ねれば重ねる程真理と偽りを見分ける力に欠けてくる。しかし少数の人がこの見分ける力を全く失うと云うことはありそうなことである。

真理への道

イエスは彼が救いの道であり真理のみたまであり、また完全な真理を受けたと宣言された(ヨハネ一四・六教義と聖約九三・二六) 聖霊もまた真理のみた

まとして知られている。(ヨハネ
一五・二六教義と聖約五〇・一
七) 真理と光明とみたまはすべ
ての人々に与えられるキリスト
のみたまである。そしてこのみ
またに聞き従う者は理解力が増
す。(教義と聖約八四・四五―
四六) このみたまはまたキリス
トの光ともよばれている。(同
じく八八・六一―一三・モロナイ
七・一四―一九) 私たちは既に
私たちの世界に於けるこのみた
まの機能と立場を学んだ。(扶
助協会マガジン六五年 一九六
五年 七月)

真理が人に伝え知らされるの
はイエス・キリストを通じてであ
る。啓示には夢や幻や心の中に
入りこむ純粋な理解力のように
いろいろな手段が用いられるが
それはどの場合でも救主を通
じてである。(教義と聖約七
六・一二―一三) キリストの教
えに従うならば即ち、キリスト
に対する信仰をもち、罪を悔い
改め、バプテスマを受け、聖霊
の賜を受けていましめを守るな
らば聖霊は常にあなたの伴侶と
なるだろう。(同じく一二一―
四六)

これらの力と影響即ち「キリス
トの光」と聖霊は人を「光明

と真理」へみちびく。これらの
ものはすべて人が復活後に完全
な喜びをうけるために父のみも
とに帰る旅路を無事に終えるこ
とが出来るように人を祝福する
ためにイエス・キリストより来
るのである。(同じく九三・三
三―三四)

判断の基準

モロナイはすべての人々に与
えられているキリストのみたま
は人々が偽りと真理を見分ける
ことが出来るように神が備えら
れた手段であると云った。真理
と偽りを見分ける方法は人々善
を行えとすすめる、またキリス
トを信ぜよとすすめるものは皆神
から出たものであると云うこと
を悟ることである。(モロナイ
七・一四―一九)

十二使徒評議員会のマリオン
ジー・ロムニイ長老はモロナイ
の言葉について次のように述べ
ている。

キリストを信ぜよとすすめる
ものはみな神から出たものであ
り、キリストを信ずるなどとき
すすめるものはみな悪魔から出
たものであると云うこの判断の
方法を用いて、私たちは主が啓
示されたものは何でも真理であ

る予言者の言葉を借りるならば
このダイアモンドの真理は現在
あるもの、過去にあったもの、
これより後にあるものすべてと
矛盾なく一致するものであると
云う確信から出発する。これは
そうあり、またそうあらねばな
らない。なぜなら神の英智は無
限であり、完全な知識に基づい
ているからである。予言者リー
ハイは神のお業のことについて
話して「万物は万物を知る者の
の全智によって成った。」と云っ
ている。

(第二ニーフアイ二・二四)

このテキストの中では暗に、
英智は知識如何によると云うこ
とと、神は全智であるからその
英智は無限であると云うことを
仮定している。「神はよろずの
ことを知ったもうから、その知
りたまわれないことはない。」第二
ニーフアイ九・二〇) 神はあら
ゆることに關する知識を持ち給
う、それは私たちの求めている
もの、真理なる知識であり、現
在あり過去にありしまた未来に
あるものの知識である。

あなたが学んだ事柄があなた
に善をせよとすすめる、キリス
トを信ぜよと説きすすめますか?
もしそうであるならばそれは神

から来ている。神から来ている
ものであるならそれは真理であ
る。真理は決して否認されるこ
とはない。(BYU会報 一九
五七年五月三〇日)

この判断の方法を明らかにす
るためロムニイ長老はこのよう
な例を挙げている。

私が心に持っていることをあ
なた方がもっと明らかに理解す
ることが出来るよう、私に一つ
か二つの例を挙げさせて下さ
い。啓示された真理のうち根本

的な教義の一つは神がエデンの
園で人に自由意志を授けられた
ことである。(モーセ七・二三)
この自由意志の保護は生命その
ものの保護よりもっと重要であ
る。なぜなら自由意志なしに
は存在はあり得ないからであ
る。「存在するものはなし。」
教義と聖約九三・三〇) それ
故、人が自由意志を授けられ享
有することに對して戦うものは
すべて、キリストを信ぜよとす
すめないことは明らかである何
故なら、キリストは自由意志の



立案者であるから……

真理と偽りは調和することの出来ないものである。あなたがなすべき必要なことはこの両者を見分けて真理を受け入れ偽りを捨てることである。このことは主が常になし給うたことである。事実、そうするためのキリストの能力は私たちが学んだことがあるように、彼の栄光である英智の中に内在するものである。ルシファアの偽りとイエスの真理は天に於いてさえも調和することは出来なかった。偽りは追放されねばならなかった。

何故人は自分の行為に対して責任があるか？

前に示されたように人は自由意志をもち、思うままに選ぶ権利を与えられている。(ヒラマーン一四・三〇)人は「キリストの光」の助けを受けこの権利を享有している故に自分の行為に対して責任がある。これに関する特別の真理が九三章に与えられており、人は英智である故に神の本質である「光明と真理」が人をしてその行為に対して責任あるものにするたとある。

あらゆる真理は神の置き給い

し範圍に於いて独立し、独りにて働くなり、すべての英智もまた然り、然らずば、存在なるものはなし、見よ、ここに人の自由意志あり、而してここに人の罪を受ける所以あり、何となれば太初よりありしところのものは人々に明白なり、然るに人々はその光明を受け入れざればなり、すべて光明を受け入れざる靈を有つ人々は罪を受く。(教義と聖約九三・三〇—三二)

真理には或る力が存在する故、人はそれを見分けることが出来る筈である。何故なら、人は真理と光明をその中に持っているからである。

太初にはどの靈も罪なき者であった。しかし天に於ける戦いでルシファアは多くの靈をひきつけて反逆した。これらの靈たちはその潔白を失い罪ある者となったが、その第一の身分を守って死すべき体をもってこの世に來た靈たちは罪なき者であった。(同上九三・三八)この罪なき状態は八才になるまで続くがそれ以後は各人は自分の罪に対して責任があるようになる。(同上六八・二五—二七)

よい羊飼いの声

人々はいましめに不従順であったとき、光明と真理を失った。福音の真理を受け入れると云うことになる、いつも人々は先祖の云伝えにより、また個人的な罪のために真理に対する感受性を鈍らせることによってそれを理解する能力を失っているために理解出来ないのである。(同上九三・三九 七六—七五 ジェームス・スー・タルメー ジ モルモン主義のバイタリ ティ二六九頁—二七一頁英文)

よい羊飼いの声は彼らにとって余りに出かすかなものとなってしまい理解出来ないのである。

末日聖徒はすべてのいましめを守るべき、羊飼いの声を知ることが出来る。(ヨハネ一〇・一一—一四、教義と聖約五〇・一七一—一二)ブリガムヤング大管長は次の質問をしそれに答えている。「どのようにして私たちはよい羊飼いの声と他の人の声とを見分けますか？」

一人の人が神のみたまにみたまされ、天の真理を宣言するとき、羊たちはその声を聞き主のみたまは彼らの心の奥底を貫き、彼らの心に深くしみ込む。



聖霊の証によって彼らの中に光が生じ、彼らはひとりで知り理解する私は末日聖徒に幾度もこのことを云ったことがある。そして今私は彼らに云う。神のみたまが永遠の生命を生ずる井戸の水のようにあなたの方の中にあることが出来るようにあなたの宗教である福音を実践しなさい。

神のみ声が神の僕を通じてくるとき、それを知ることが出来るように準備しなさい。そうすればあなたの方は自分で「これは主のみ言葉である」と宣言す

子供たち—光明と真理

主は末日聖徒にその子供たちを「光明と真理」の中に導くよう命ぜられた。(教義と聖約九三・四〇)このいましめは教会のいかなる人にも及ぶものであ

ることが出来る。末日聖徒と地上の全人類に対する私の警告と忠告は「偽りから真理を区別することが出来るように生活しなさい。」と云うことである。(ジャーナル オブ ディスコース 一六・七四—七五)

る。一八三三年には大管長会の人たちさえこのいましめを守っていないと主に云われている。

これは大管長ジョセフ・スミスの副管長であったフレデリック・ウィリアムスとシドニイ・グトンについて云い給うたのである。彼らが「汝の家を整うべし」と云ういましめに従わない限り、サタンは彼らの上に力を持ち続けるだろう。(同上九三・四一四四)

予言者さえもこの問題で欠ける場所があった。彼の家族について重大な真理が教えられている。「汝の家族共は必ず悔改めて、或る事を捨て、また汝の云うことに一層誠実に心を留めざるべからず、然らずんば彼の居る所より立ちのかされざるべからず。(九三・四九)

換言すれば責任は親だけにあって、でなく子供にもあるのである。しかし主要な義務はその子供たちに正義の原則を教える両親の側にある。(同上六八・二五・三一) この教会の至る所で用いられている家族の夕べのプログラムにはこのいましめが親と子によって守られることの出来一つの手段である。いかな

る人も末日聖徒ほどにその子供たちを光明と真理にみちびくための機会を与えられている者はない。また他のどんな人も末日聖徒と同等の責任の下にないと云うことも事実である。私たちは子供たちが天の御父から来ており、この世で子供たちのためにそれをしてやるか、してやらないかと云うことは彼らの永遠の未来を決定する大きな基準になると云う真理を考える時この責任の重大さはもつとよく認識される筈である。

クラス討論

もし両親がその子供たちを「光明と真理」へみちびいたならば、何がこの世で起っただろう？

末日聖徒の家族は永遠の存在者になるようにくろまれていく。親と子が永遠を通じて交わると云うことは教会のすべての忠実な会員の望む目標である。

永遠の結婚は主の家でうけたいましめと義務を守ることによって資格が与えられる儀式である。大管長であったジョセフ・スミスは殊にこの考えに関心のあることを述べておられる。

私たちは永遠に生きているのであり、単に現在だけを生きているのではない。もし私たちが神より人々に啓示された権威の力で互に聖なる関係に入るならば死が私たちを互に分かちへだててしまうことはない。私たちの関係は永遠に形作られている。私たちは不滅の存在者であることを示し、この世で結んだ契約を忠実に履行した後に高められた昇栄の生活に到達する筈の進歩を期待している。そしてその時私たちは完全な喜びを受けらるだろう。(福音の教義)

検討のために

家族の一人一人が聖霊を常に伴侶として持つことが出来るように生活すべきと云う生き方について家族で討議することは彼らにとって助けになるとあなたは考えますか？

× × ×



イエスは私たちの罪を贖われた

若しもこのようなことが起るなら私たちは最も恐ろしい運命に苦しむこととなるでしょう。この運命はニーフアイの弟ヤコブによってモルモン経の中に記述されて居ります。成人または年長の子供がこの聖句を読んで他の者たちはそれぞれ自分のモルモン経でそれにつけるようにするとよい。

。おお大いなる神の智恵よ。その深い憐れみと御恵みよ。ごらんもし肉体がもうよみがえらないならば、私たちの霊は必ずあの天使、すなわち永遠の神の御前から堕ちて悪魔となった天使に服従してしまうがえることは決してない。そして私たちの霊は必ずあの天使のようになり、私たちは悪魔すなわち悪魔に属する使たちとなって私たちの神の御前から締め出され、あの偽りを生む親と共に彼自身のように不幸の中に留らなければならない。……

(ニーフアイ第二書九・八一―九)

この節の中で私たちにどのようなことが起ると告げてありますか？ 家族たちに次の描写を見つけて下さい。

私たちの霊は必ずあの天使、すなわち永遠の神の御前から堕ちて悪魔となった天使に服従して、

私たちの霊は彼(サタン)のようになる神の御前から締め出される

偽りを生む親と共に不幸の中に留る

家族たちに再び暴風雨のときに湖の真

中で覆ったボートにしがみついてどうすることも出来なかった恐ろしさを思い浮べるように言いなさい。このことは彼らがこの地上に住んで、貴方がまたは愛する肉親が死んだとき再びその肉体をとることが出来ないであろうと知り、貴方が如何に善を為そうと励んでもわずかな罪が天父の許に返ることを許さず、この生涯の後に私たちの天父と共に永遠の生命に向う代りにサタン及びその従者と共に逃れる望みもなく住まねばならぬと知るべき如何に恐ろしいものであるかを想像する助けとなるであります。このことは誰か私たちのことを心配し、私たちを助けて死及び罪に打克とうとする人がなければ私たちに起るべきであります。

「イエスは私たちのために永遠の生命を得られるようにしました」

私たちの天父が私たちを如何に愛して居るかの最大な証の一つは、死と罪が私たちを彼から離すような危険をおかそうとされないことあります。彼は私たちが彼と共に私たちの家を安全に出かける前に、私たちが私たちを死から救い罪に打克てるようにする救主を持つように計画されたのであります。

私たちの救主が如何に選ばれたかを告げる聖文を読みなさい。これは貴方が自由意志のレッスンで読んだのと同じ聖句であります。

われ主なる神、モーセに語りて言いけるは、汝がわが生みたる独子の名により

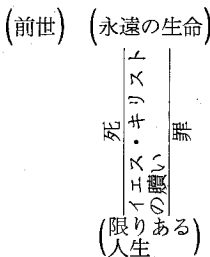
て退けと命じたるかのサタンは太初より在りし其者なり。彼わが前に来りて言いけるは、見たまえ、われ此所に在り。われを遣わしたまえ。われ汝の子と成らん。われことごとく人類を贖いて一人だに失うことなからしめん。われ正にかくの如くすべし。これを以てわれに汝の誓を与えよと。されど見よ、わが愛しむ子、太初より選びたる者なるわが愛子、われに言いけるは父よ御旨の成らんことを、栄光とこしえに父にあれと。(高価なる真珠モーセの著一七―一七の者四・一、二)

サタンがどうして救主に選ばれなかったか復習しなさい。次の各項に就て討論しなさい。彼は私たちの自由意志を取り去ろうとしました。彼は私たちを義を行うように強制しようとしていました。私たちはすべて彼の言う通りにせねばならなかったでしょう。これは丁度、湖で貴方を救いに来た若い人が「貴方が浅った生涯何でも私の言うことを聞かぬなら救ってあげよう」と言うのと同様であります。

イエスは救主になろうと申出たとき何と言いましたか？ 家族の内誰かに彼の言葉を読ませなさい。(モーセの著四・二) これらの言葉から彼に就て私たちが何を知るでしょうか？ それは彼が天父の計画を為そうとしたことを告げて居ります。(御旨の成らんことを) 彼は私たちの天父を愛し、天父に栄光をもたらそうとしました。(栄光とこしえに父にあれ) 彼は私たちの救主、贖主となろうと

申出て私たちのために死ぬに十分な程愛したのであります。

そこで私たちの長兄であり私たちの天父の最初に生れた霊の子イエス・キリストは私たちの救主たることになったのであります。彼は予定されたときにこの地上に来て、私たちが復活して罪を悔改めて天父の処へ戻って共に住めるように私たちのために死んだのであります。この思想を強調するために、限りある人生と永遠の生命との間にイエスが可能にした橋を描きなさい。この橋が私たちのこの地上に於ける生涯を変えた点に就て討論しなさい。絵の下にイエスの働らきによって私たちの生涯が如何に異ったかを記しなさい。下記は、それがどのように記されるか一つの例であります。家族の中で十代の者がこの一覧表を書くように選ばれることが適当であります。



- 一、キリストが来なければ
- a 私たちは恐れ不幸であつたでしょう
 - b 私たちは死後肉体を持つことが出来なかつたでしょう。
 - c 私たちの罪は私たちを私たちの天父からひきはなしたでしょう。

d 私たちが死んだときはサタンの勢力下に在つたでしょう。

e 私たちは私たち自身を救う方法がなかつたでしょう。

二、キリストが来れば

a 私たちはこの地上で安全と幸福を感じることが出来ます。

b 私たちは死後私たちの肉体を持つことが出来ます。

c 私たちは私たちの罪を悔改めをされることが出来ます。

d 私たちは私たちの天父と共なる永遠の生命のために私たち自身を準備することが出来ます。

家族の一人にヨハネ伝三章十六節を讀ませなさい。

。神はそのひとり子を賜わったほどに、この世を愛して下さった。それは御子を信じる者がひとりも滅びないで永遠の命を得るためである。

家族の一人一人にこの聖句が彼にどのような意味を持つか彼自身の言葉で告げさせなさい。この節の中で教えられている真理（私たちの天父は私たちが永遠の生命を持てるようにその一人子を遣はされる程私たちを愛して下さった）は実に福音の核心であります。若しも家族の各人が、これを理解し、それが彼に如何に個人的に適用されるかを感じ得るとき、すべての福音が彼にとって大切なものと

なり、続くイエス・キリストに就てのレッスンは其の意義を持つてありましよう。家族たちが暗記するようにこの聖句を掲示板にかけておきなさい。

「私たちの救主、イエス・キリストを覚える」

家族たちに再び湖上の経験を想像させなさい。若しも若い人とそのお父さんが実際に、貴方の生命を救つたとしたら貴方はそれを忘れますか？ 貴方は彼らに就てどのように言いますか？ 若しも貴方は彼らに逢つたらどのように扱いますか？ 私たちはこの人たちに對する感謝の念を想像することによって、私たちが天父と後子イエス・キリストに如何に負うところが大きいかを一べつしてつかむことが出来るのであります。若しも私たちが、イエスが私たちが幸福な人生を持ちそれから天父の処へ帰って永遠の生命を享受出来るようにするため、如何に苦しみ死んだかを理解するとき、それを忘れることが出来るでしょうか？ それが私たちをして彼に、また彼を送つてくれた私たちの天父に對し、どのように感じさせますでしょうか？ 私たちのためのイエスの犠牲を覚えていることが貴方の毎日の生活を異つたものとするでしようか？（それは私たちをして彼の律法と誠命を守つて私たちの感謝を示そうとさせるでしよう。）私たちがイエスが私たちのために為してくれたことを常に覚えて置くことは私たちのための彼の犠牲を思

い出すために毎週一定の特別な時間を定めておく程大切なのであります。この時間とは何でしようか？（聖餐式）

十四才の少年が聖餐式に就て次のような声明をしました。

。私はいつも聖餐式のときにイエスを思い出し覚えようと努めますがどのようにしたらよいかわかりません。私は十字架にはりつけられたイエスを考えるべきでしようかまたは彼の生涯に就て何か考えるべきでしようか？ それとも彼の教会に就てでしようか？

聖餐式のときに私たちがイエス・キリストを思い起すために、どのような思いを浮べたらよいでしようか？ 家族たちに考え討論させなさい。レッスン中に貴方が作つた表を用いて彼らの考えを刺戟しなさい。レッスンを終つてからこの表は家の掲示板に貼るか家族たちがよく見える処にかけて今週中、読むようにさせなさい。これは家族たちがイエスが私たちが永遠の生命を持てるようにしてくれたことを覚えるのを助けるのであります。このことは私たちがこの人生を終えたら、天父の許に帰れると云うことを知つて、この世で幸福な人生を持つことが出来ることを意味します。イエスなくしては、天父の許に帰ることが出来なくてこの世の私たちの生涯は悲しいものとなります。

若しも家族たちが聖餐が配られているときに、このことを思い、信じ、覚える

なら愛と感謝の念に充たされて天父と御子の方へ近づけられて行くのをどうすることも出来ないでしよう。聖餐は各人にとって思い起し、覚える神聖なときとなるでありましょう。

「家族の割当て」

来る一週間イエスが貴方たち一人一人のためにこの世で幸福な人生を持ち天父と共に永遠の生命を望めるようにしてくれたことを覚えるように努めなさい。次のようなことがその助けとなるでしょう。

家族で祈るとき、救いのため御子を遣わされたことに對し天にいますお父様に感謝することを覚える。

覚える聖句(ヨハネ伝三・一六)を暗唱し食事ときに、無理なくそれに就て語り合う。

日曜に教会に出席する前に、家族たちに聖餐をいただく心構えを準備させるために特別な家族の祈りをする。

聖餐が配られているときにイエスが私たち一人一人のために何を為されたか覚えることに集中する。

そうするために聖餐式をイエス・キリストを覚えるための神聖なときであると考え。イエス・キリスト以外のことを考えてこの時間を無駄にしないように決心すること。

一、イエスが貴方の生涯を変えたことは実際に湖から救い出されたと同様に現実的であることに思いを致すこと。

二、イエス・キリストの働らきによって貴方の生涯が如何に変わったかを示す図表の下に列挙項目を考える。

三、救いのため御子を遣わされたことに對し静かに天父に感謝する。

「歌」

讚美歌七十六番。主イエスの愛に。

「閉会の祈り」

この祈りは若し祈る人が御子イエス・キリストのために私たちの天父に対する家族の感謝を表現するなら、真に意義あるものとなります。

第十六課

イエスは私たちの罪を贖われた

「目標」

家族の各人がイエス・キリストの贖いによって彼が若し悔改めるならその罪から赦されることを覚えるように助ける。

家族の各人に聖餐式の時にこれを思い起し覚えるように集中すべきであります。

「このレッスンの為に靈的ふんいきをつくる」

家族たちを暖い靈的な気持で結び合せる為に、貴方は家族をそろって天父と御子イエス・キリストに就てさらに多く学ぶとき、親として如何に多くの喜びを受けるか、彼らに告げるとよろしい。若しも貴方が家庭のレッスンのために私たちの天父とイエスを身近に感じたならば、貴方の気持を家族に告げなさい。

家族たちをして、讚美歌七十二番高き

にみちたる。の最初の二節を歌わせなさい。歌うときにその言葉をよくかみしめて味うように言いなさい。

「お祈り」

貴方は天のお父さまに家族の一人一人がイエス・キリストの贖いが如何に彼の人生を変えたかを理解するように助けるように頼もうとされるでしょう。

「何故イエス・キリストの贖いが必要であつたかの復習」

“atonement”(贖い)と言う言葉は、私たちと天父の間を *at-one-ment* 一つにもたらずと言うことに定義されて來ました。何故贖いがこのように説明されるのか家族たちに討論させなさい。先週のレッスンのときに作った図表を使って、家族たちが、私たちは滅すべき者としてイエスなくしては、死と罪によって私たちの天父から離れるであろうことを、けれどもイエス・キリストの使命によって復活を通じて私たちは死に打克つことが出來、私たちが悔改めるときに私たちの罪は赦されることを思い出すように助けなさい。言いかえれば、贖いをもたらしたいエスの受難と死の故に、彼は私たちが天父の許に帰り再び彼と一つになる。即ち彼のようになつて彼と共に彼の王国に住むことが出来るようにしたのであります。若しも家族が年長の子供と成人からだけ成っているなら共にアルマ書三十四章九節を読めばよいでしょう。

家族たちが贖いを計画されたのは天父

であることを理解したかどうか確認しなさい。これは私たちに對する天父の大きな愛を示します。何となれば彼は私たちがこの生涯を通じてすべての益を受け、しかも彼の許に歸つて彼と共に住めるように計画して下さつたからであります。

「レッスン」

イエスは私たちの罪が赦されるようにしてくれました。

復活祭のレッスンは贖いが如何に私たち家族の一人一人を助けたかを示しました。何となればそれは私たち各人を復活出来るようにしたからであります。次のレッスンは家族たちがイエスが彼らが悔改めるときに罪が赦されるようにしてくれたことを理解する助けとなるであります。

イエス・キリストの贖いがこの地上に生きた人の人生をすっかり変えてしまつた劇的な実例がアルマの子のアルマの話に見られます。家族たちをして、第七課及び第九課で与えられたところの彼の話を復習させなさい。そして彼が予言者の子でありながら教会を破壊しようとし、また、その他多くの悪いことをして廻つたことを強調しなさい。彼のお父さんの祈りが答えられて彼の天使の訪れをうけ天使は彼に神の教会を破壊しようとしてはいけないと告げました。何十年かたつて年とり、父親となつたアルマは彼の子にこの経験を述べております。モルモン經のアルマ書三十六章十節から二十一節

までを家族たちをして順番に読ませなさい。

それから私は地に倒れて三日三晩口を開くことができず、手足を動かすこともできなかつた。この使はなおほかのことを私に言われたが、私のつれの人々だけに聞えて私には聞えなかつた。それは私が「汝がたとえ自分で亡びようと思うとも、この後再び神の教会を亡ぼそうとしてはならぬ」と言う言葉聞いたときに、これは自分が亡びるかと思うほど恐れ驚いて地に倒れ、もはや何にも聞えなかつたからである。それから私は自分が犯した一切の罪のために非常に良心のたがめを受け、永遠の責苦を感じた。私は本当に自分のあらゆる罪と悪事とを思い起して、そのために地獄の責苦を感じ、また神に逆らつてその聖い命令を守らなかつたことを認めるようになった。私は神の子らを多く殺した。殺したと言うよりもむしろかれらを誘つて亡びしたのである。要するに私は自分の犯した罪が非常に重かつたから、自分の神の前に出なくてはならぬと思うだけで言いようのない恐怖で身も霊も引き裂けるように苦しんだ。そのとき私は、自分の神の前に立つて自分の行為によつて裁判を受けないよう、霊も肉体も一しよにみな消えてなくなつてしまふばよいと思つた。そしてこのように三日三晩私は永遠の責苦を受ける者の責苦を感じた。しかし私がこのように責め苦しめられすでに犯した多

くの罪を思い起して非常に良心に責められていたとき、神の子であるイエス・キリストと言うお方が、世の人の罪を贖うためにこの世へ来りたもうと言うことを、私の父が前に人民に予言をしたことを思い出した。そしてこれを思い出したとき、私は心の中で、「神の御子イエスよ、永遠の死の鎖にしばられて今苦汁を飲まされている私を憐みたまえ」と歎願した。このように心の中で願うと、ごらん、私はもう少し苦痛を覚え、再び自分の罪を思い出して苦しむこともなかつた。ああこのとき私の感じた喜びと、私が見た驚くべき光とはいかにも大きかつた。まことに、私はこのとき、前に感じた苦痛にひとしいほどの喜びに満ちたのである。わが子よ、お前に言うが、私とそのときに感じたほどの劇烈な責苦がこの世にまたとあらうか。またそのときに感じたほどの甚しく美しい善びがこの世にまたとあらうか。

何故アルマは二日間悲惨な責苦を受けたのでしょうか？ 討論しなさい。（彼は彼の罪の思いのために苦しめられたのであります。彼は犯した多くの罪を思い出したのであります。そして彼がこれらの罪に覆われて神の前に立ちその犯した罪によつて裁かれるであらうとの思いが彼をして神と逢えないように何処かへ消え失せたいと思うまでの恐ろしさに充たしたのであります。アルマの苦しみの果てはどうなりまし

たか？ 討論しなさい。若しも必要ならばアルマ書三十六章十八節十九節を再読しなさい。（アルマは彼の父がイエス・キリストが世の人の罪を贖うためにこの世へ来たもうと説教していたのを思い出しました。彼はその罪をすまなく思い心から悔改めてイエスに憐み結えと叫びました。それから苦痛は彼の心から去りました。彼は彼の罪を思い出すことも出来ず、恐ろしい犯罪の感じも消えたのであります。彼は放棄したいと願っていた罪から赦されたという甘い確信を持ったのでした。）

アルマはイエス・キリストの贖いによつて私たちの罪が赦されるので私たちの人生が一変する直接の経験述べたのであります。私たちは皆、アルマ程の罪を犯さなかつたとしても何らかの罪を犯しているのであります。何故これが真実なのでしょう？ 第十三課で与えられた罪の意味を復習しなさい。（罪は、御子イエス・キリストを通じて私たちの天父によつて与えられた律法または誠命に調和しないすべての思いまたは行為であります。）私たちは誰もこれらすべての誠命を完全に守っているわけでありませんから私たちは皆ある罪を犯しているのであります。私たちは私たちの過ち及び弱点を含むこれらの罪が赦される望みが全くないと思つとき、丁度アルマが感じたような罪に苦しめられ不幸な思いをするでしょう。私たちが私たちの罪の赦し

を乞ひ、私たちの弱点の一つに打克つたことを知ることからもたらされる甘い安らかさと幸福を感じるとき、アルマが述べたところのイエス・キリストの働らきによつてのみ可能なある喜びを経験するのであります。

下記は私たちがたとえ小さな悪でも悪を行なつたときに、如何にアルマのように罪を感じ不幸となるかまたその悪を克服して赦されたときに、如何に異つた感じを受けるかの実例であります。貴方の家庭に最も適した例を用いなさい。何れの場合もイエスが私たちの罪の赦されるようにしたので、いい気持がもたらされることを強調しなさい。

五才のアレンは作り話をほんとうのように告げるくせがつきました。ひんばんに事件がありました。例えばある日アレンは家の中にとび込んで来てお母さん裏庭の方で大きな一匹の犬が弟の赤ちゃんに吠えつてゐると告げました。お母さんはあわててとび出して行きましたがそこには犬はおりませんでした。アレンの作り話であつたのでした。彼のお母さんとお父さんは、アレンに話しました。彼らは若し彼がこしらえた話なら人々に作り話したと言うように、決してほんとうのことでないことをほんとうだと言わないように言いませました。ある夜アレンはベットに入る前に言いました。「今日は僕はほんとうのことばかり言つたからほんとに嬉しかった」

何故アレンはそんなに嬉しかったのでしょうか？ 何となれば彼はほんとうでないと知っていることをほんとうだと告げていたときに感じた罪を犯した不幸な気持ちを感じなくなったからであります。

十才のカレンは兄さんの部屋で、化粧台を拭いて居りました。彼女は化粧台の上に二十五セント銀貨が置いてあるのを見つけた。彼女は誰にも言わないでその二十五セント銀貨を取ってお母さんの為にお店に買物に行ったときにアイスクリームとキャンデーを買って使ってしまった。その後カレンは罪を感じ恥ずかしくなりました。彼女は兄さんが気がついて彼女が取ったと思わないうつなかつた。彼女はすっきりゆううつな気分になってしまひ堪えられなく遂に或日自分のお小遣から二十五セント取って兄さんに渡し、自分のなしたことを告げて赦しを乞いました。兄さんは心よく赦しました。カレンはよい気持ちになりました。彼女の心から黒い幕が取り除かれたような気がしました。

何故カレンはそのようなよい気持ちになったのでしょうか、何となれば彼女は、今まで感じていた罪を犯したという恐ろしさを忘れたからであります。

十才のケントは友人に一日中の旅行に誘われました。行くためには、彼は費用の分担を支払わねばなりません。彼が持っているのは自分の一のお金だけでした。けれども彼はあまり行きたくてその

金を使ってしまいました。ケントは期待していた旅行を楽しむことが出来ませんでした。どうしてこれは真実なのでしょう？ (彼は罪を犯したと感じ、使うべきでないと感じている自分の一のお金を使ったことを恥しく思いました) 彼は自分の一をためて監督の処へ持って行くまで、よい気持ちになれませんでした。それから彼は別人のように朗かになりました。

何故ケントは使い果した自分の一をつくったときに救われたように感じたのですか？ 何となれば彼は過ちを直し罪から赦されたことを知ったからであります。

家族たち各人が更に個人的によく贖いを理解するように助けるために、貴方は各人に小さな紙片を配りなさい。この紙片上に各人は自分の欠点または弱点を書きます。それは、口論、他人を悪く言うこと、物惜しみすること、家のお手伝いを責任を以てしない。分け与えようとしない。偽り、益みなどを含みます。このような欠点を何故罪と呼ぶことが出来ますか？ (何となればそれらは只、私たちの天父が私たちになすように求めたことも反対だからであります)

さて各人の衣服の上に横に裏返しにしてその紙片をピンでとめなさい。そして各人に彼の欠点または罪がこの紙片のようになすように密着して決してとれなかったらどのように感じるかたずねてごらんなさ

い。若しも私たちの罪が赦されなかったら丁度このようになるのであります。私たちが悪事を止めたとしても過去の過ちに対する犯罪の意識がつきまとうのです。このような罪が私たちの内に在っては、私たちは天父の御前に行くことは出来ないのです。アルマと同様に私たちは天父に直面することを恐れるのであります。

さて今度は各人に永えに罪を身につけている憐れな状態に、彼が悔改め罪を犯すことを止めて完全に赦された幸福さを対照させてごらんください。各人に彼がその罪から解放されたことを強調して、その身に着けていた紙片を取除いて破って捨てさせなさい。その紙屑を入れる容器を用意しなさい。家族の各人が贖いは彼の人生を真に異なったものとするを何となれば彼が悔改めて大小数々の罪から離れ去るとき、丁度この紙片を取除き破って捨てたように罪から赦されるであろうことを理解したか確認しなさい。教義と聖約七十六章四十節から四十二節までを読みなさい。

そのとき天より声ありてわれらに証せる福音、すなわち喜びの音信とはかくの如し。それ、イエスは世に來りたもうて世のため十字架に附けられ世の罪を負い、世を聖くし、あらゆる不義を潔めたもう、これ……あらゆるものを彼によりて救わんためなり。

何故贖いの知識が私たち一人一人にと

って、喜びの音信、またはよいニュースなのでしょう？ 討論しなさい。家族の各人が贖いが個人的に彼にとってよいニュースであると考えないように加けなさい。それは彼をしてその過ちや失敗に打克たしめそれらを赦されるようにするのであります。このことは彼がそれらを忘れた彼の過去の過ちの罪に責められることがなくなることを意味して居ります。教義と聖約七十六章四〇節の写しを揭示板にかけて家族に覚えさせるようにしなさい。

「私たちは私たちの罪を悔改めるときに赦しの賜を受けます」

復活のレッスンで私たちは誰が復活すると学びましたか？ (すべての人) 復活の賜を得るために私たちは何かなさねばならないのでしょうか？ (いいえ、これはすべての人に、その人が如何に生活したかに関係なく与えられるものであります)

私たちは罪の赦しの賜を受けるために何かなさねばならないのでしょうか？ 討論しなさい。(はい、私たちは罪が赦される前に悔改めなければなりません。これは私たちの天父がその子供たちの努力に応じて公正に取扱う正義の神となる誰一の道であります。それは自由意志の賜が私たちを助けて罪を克服し、永遠の生命に対する私たちの個人的な価値を証明する誰一の道であります。それは私たちが私たちの欠点及び過ちを克服すること

を學んで、能力の内に成長出来る誰一の道であります。私たちの天父の計画は罪に打克つために私たちが私たち自身で出来るすべてのことをするという事です。私たちが完全に罪に打克つて天父の許に帰れるように私たち自身で私たちの罪を贖ふことの出来ない点を救主であり、贖主であるイエス・キリストをしてなさせることもまた天父の計画であります。このことはジョセフ・スミス大管長によって非常に美しく説明されております。

人は自分自身の罪を赦すことは出来ません。彼らは彼らの罪の結果から彼ら自身を赦うことは出来ないものであります。人は罪を止めてこれからの行為が主に受入れられるものであり考慮される価値あるものとなるように、今後正しいことをなすことは出来ます。けれども彼らが彼ら自身にまた他人に対してすでになしたところの彼ら自身に修正することのできそうにない悪を誰が修正してくれるのでしょうか？ イエス・キリストの贖いによって悔改めた罪は洗い潔められるのであります。課紅色であっても毛のようになくなるのであります。（神首の教義九十八頁）

後のレッスンで私たちは悔改めに就てもっと學ぶでしょう。けれどもイエス・キリストを通じて私たちの罪は安全に赦されるようになったとはいふものの赦しの賜を要求出来るようにその前に先ず心

から悔改めねばならないということを知ることが大切であります。

「私たちの罪が赦されるようにイエスは苦しみを受け、死にました。」

私たちはしばしばイエスは苦しみを受けて死んだと聞きますが、それは何か大昔に遠くの方で起ったことだと感じ易いのですが、その実、イエスの受難と死程私たちは自身の生活に効果を及ぼしているものではないのであります。それは殆んど毎日、毎時間私たちの生活を襲っているのであります。何となれば私たちは過ちを犯し悪を行う度に贖いが必要とするからであります。彼の受難と死は、私たちが罪から安全に治められて天父の御前に立てるように私たちのために私たちの罪が安全に赦されるようにしたのであります。

イエスの受難と死が私たち各人の生活にそのような重大な役割を果しているのて家族たちにイエスの受難と死に関係する事件に就てよく考えるように言ひなさい。次の質問を用いて家族たちにこれらの事件を思い出させるようにしなさい。若しも家族の中で誰も答えられる者がいなかったら貴方自身で答えて進んで行きなさい。彼が十字架にはりつけられる前夜にゲッセマネの園に於て受けた、救主受難の一部、彼が園にいた間に彼のお父さんに祈った言葉にどんなのがありますか？「父よ、みこころならば、どうぞこの杯をわたしから取りのけてください。」

しかし、わたしの思いではなく、みこころが成るようにしてください」（ルカ伝二二・四二）ルカは彼が血の汗を出す程苦しんだと告げております。（ルカ伝二二・四四）救主自身、彼の苦しみを述べております。

「見よ、われは神なるに、人もし悔い改むるならばこの苦しみを受けざるんがために、すべての者に代りてこの苦しみをわが身に受けたり。」

されど、人もし悔い改めずば誠にわれと同じ苦しみを受けざるべからず。その苦しみたるや、われ神、すなわちすべての中最も大いなる者なりといえども痛苦のために身をふるわせ、あらゆる毛の孔より血を湧かせ、身と霊と両方ながらを苦しめ、すなわちこの苦しきさかずきより吞まずしてしりごみするも可ならんことを欲したり。」（教義と聖約一九・一六——一八）

家族たちにイエスが苦しんだ大いなる苦しみを感じるように言ひなさい。彼らは自分が経験した最悪の苦痛を思い出し、この肉体的苦痛に悪を行なったときの不安な、そして不幸な感じを加えてもイエスの苦しみに比べるべくもないことを知るでしよう。彼はすべての人の罪のために苦しみさらに十字架上の肉体的な苦しみを加えたのであります。私たちは彼の苦しみが如何に痛烈なものであったかも想像もつかないのであります。私たちはただ彼が私たちの想像出来る以上に苦

しんだことを知るだけであります。

イエスにとって彼自身を死から救うことは可能でしたか？（はいそうです。イエスは自らはりつけになることを許したのであります。彼は何時でも彼自身を救う能力を持っておりました。イエスは如何なる人も彼から彼の生命をとる能力を持っていないと言いました。ヨハネ伝一〇・一八）何故彼は自ら進んで苦しもうとし、また十字架上の苦しみに堪えようとしたのですか？（彼は私たちのために苦しんだのです。彼は私たちのために苦しむ程私たちを愛していたのであります。何となれば彼は彼が私たちの罪を贖うことによって私たちが天父の許に帰って永遠の生命を享受出来るようにすることとは、私たちの天父の御計画の一部であることを知っていたからであります。）

「私たちはイエスが私たちのために苦み且死んだことを忘れるべきではありません。」

しりません」

イエスの苦しみを覚えることがどうして私たちの罪を赦し、私たちがして彼の犠牲に、より価値あるものとするのでしょうか？ 次のことを討論しなさい（若しも私たちが真に彼の苦しみと死を覚えていたら私たちは私たちに對する彼の偉大なる愛を感じて彼に感謝するでしよう。このことは私たちがして彼を愛し、彼に對し親密感を覚えさせ、彼の誠命を守ろうという大きな望みを持つに至らせるでしよう）

私たちが私たちの罪の赦しに関して覚えるべきあるはつきりした事実にはどんなものがありますか？ 家族の内の一人に家族たちが述べる考えを書かせなさい。この表は家族たちが今週中屢々読めるように掲示板にかけておくとうろしい。この表には次のような事実を含めるべきであります。

一、イエスは私たちの罪が赦されるようにと、苦しみました死なれた。

二、私たちは赦しの賜を受ける前に私たちの罪を悔改めるべきであります。

三、イエスは私たちのために自ら進んで苦しまた死なれた。誰も彼にそうするように強制することは出来ませんでした。

四、私たちは私たち自身が赦される以上他人をも赦さなければなりません。

(モーサヤ書二六・三二)

イエスの犠牲を覚えようと真に努力したある人は、聖餐をいただく気持ちに三方面にわたって効果を及ぼしていることを発見しました。

一、彼は聖餐の神聖な目的を強く感じ、この時間中に彼の心はイエスに集中しまたイエスの使命を天父に感謝すること以外に何も考えないようになりました。

二、最初は聖餐式中に周囲のことに気をまぎらわされ易かったけれどもイエスによって変えられたことを強く感じる

ようになってからは周囲に何が起こっているかほとんど気がつかなくなりました。

三、イエスの誠命を今までよりも、もっと完全に守りたいと願う程イエスに対する愛を感じ感謝の念を覚えました。

家族たちに上述のような、イエスが彼らのために何をしたかを思いながら過去二週間の聖餐式に於ける彼らの経験をそれと比較させなさい。

「家族の割当て」

今週中イエスが家族の各人のためにその罪が赦されるようにしたことを覚えるように努めなさい。次の事項を続けて用いなさい。

貴方が祈る時、天父に私たちの罪が赦されるようにとその息子を遣わされたことに感謝しなさい。彼は私たちの罪のために苦しみを受け死なれたのであります。

食時中に覚えた聖句（教義と聖約七六・四〇―四一）を暗誦しなさい。これは家族の各人に個人的に関係あるのでその意味を討論しなさい。

日曜日に教会に行く前に特別の家族の祈りをして、家族たちに聖餐をいただく心構えをさせなさい。

家族の各人は聖餐が配られているときに、私たちの罪のためにいかにイエスが自ら進んで苦しまれ死なれたかというように思いを集中するでしょう。彼は誰も

イエスの生命をとる能力を持たなかったけれどイエス自ら私たちのためにその生命を捧げられたことを覚えるでしょう。

聖徒の道は

私たちが真理を知る「てだて」であり

私たちの心と心がかよう道です

あなたの霊の進歩のために

あなたの信仰のかてのために

お役に立つ本であればと思います

聖徒の道

一九六七年七月一日発行

振替口座 東京一六二二六番

発行人兼編集人 アドニー・Y・小松

発行所

東京都港区南麻布五丁目八番十
末日聖徒イエス・キリスト教会

電話 四七三一六一三

印刷所 株式会社三五堂

定価七十円

一年予約七〇〇円(申込は支部長まで)

支部所在地

北海道地方部

旭 川 旭川市8条5丁目
MIA集会所 旭川公会堂
電話 (0166-2-1545)
室 蘭 室蘭市幸町89
電話 (0143-2-7054)
小 樽 小樽市富岡町1ノ35
電話 (0134-2-7054)
札幌 札幌市南20条西16丁目
電話 (0122-56-7175)

東中央地方部

群馬 高崎市並榎町275
電話 (0272-22-7121)
甲 府 甲府市中央3丁目12-2
電話 (0552-3-2409)
松本 松本市開智1ノ1ノ6
新潟 新潟市中大畑町557
電話 (0252-22-8660)
仙台 仙台市光禅寺通り28
電話 (0222-25-0897)
東京中央 東京都港区青山北町6ノ34
電話 (03-400-3307)
東京北 東京都中野区江原町1ノ8ノ14
電話 (03-953-8244)
東京東 東京都江戸川区西小岩5ノ8ノ6
電話 (03-658-7310)
東京南 東京都大田区南千束町2-25-11
電話 (03-729-6311)
東京西 東京都武蔵野市吉祥寺東町1ノ7ノ7
電話 (0422-22-6764)
山形 山形市七日町4丁目12ノ23
電話 (02362-3-3380)
横浜 横浜市港北区篠原町29
電話 (045-40-8772)

西中央地方部

阿倍野 大阪市阿倍野区阪南町中1-11-8
電話 (06-623-4315)
福岡 福岡市浄水町46
電話 (092-52-8653)
広島 広島市古田町古江400ノ3
電話 (0822-71-5309)
金沢 金沢市兼六元町3ノ8
電話 (0762-21-2131)
京都 京都市左京区下鴨松原町44
名古屋 名古屋市昭和区北山町3ノ41
電話 (052-731-4210)
西ノ宮 兵庫県西ノ宮市仁川町4ノ54
電話 (0798-51-0141)
岡町 大阪府豊中市岡町北2ノ18
電話 (068-52-1236)
岡山 岡山市学南町1ノ13ノ11
電話 (0862-52-3560)
三ノ宮 神戸市灘区篠原本町4ノ35
電話 (078-86-2602)
柳井 山口県柳井市今市391

沖縄地方部

普天間 沖縄宜野湾市野嵩328
那覇 沖縄那覇市崇元寺町1-128-20
電話 (3-1620)

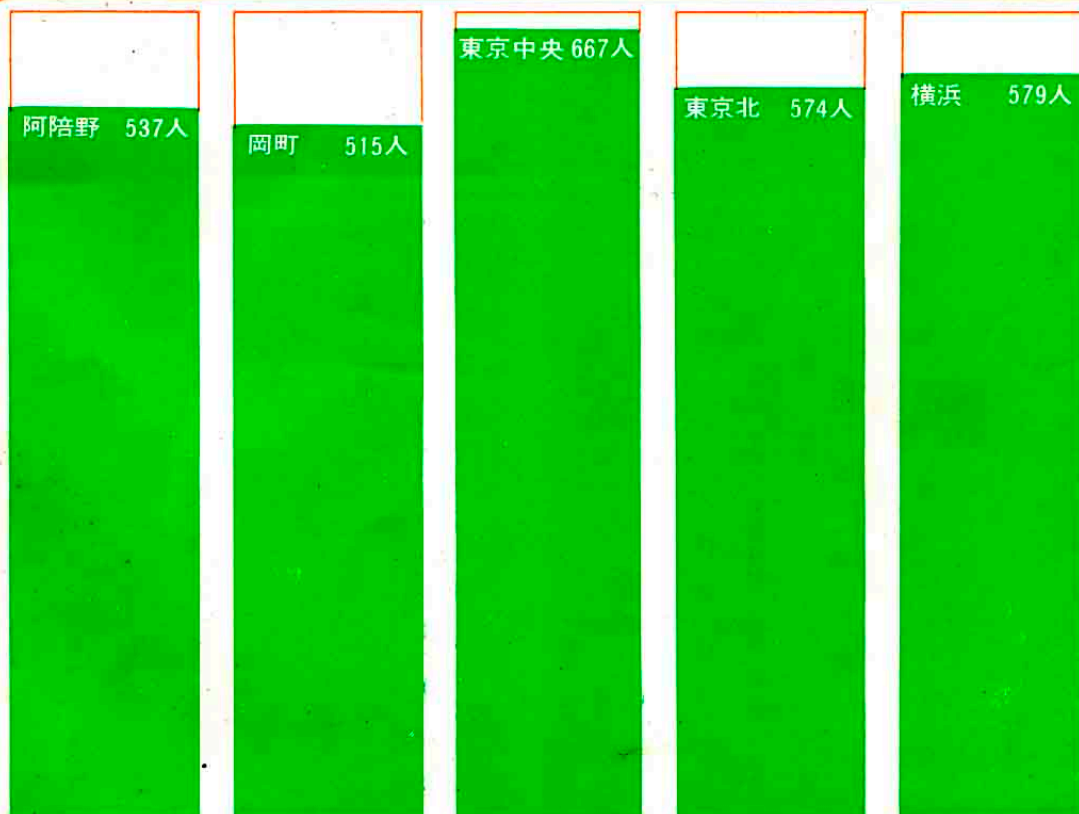
建築部事務所 東京都港区青山北町6ノ34
電話 (402-4010)

(誤りのある支部の支部長はご一報ください)

あと496人で10,000人

1967年6月現在で北部極東伝道部の会員数は
9,504人となった

会員数500人以上の支部



400人以上の支部 東京西421人 名古屋406人

300人以上の支部 広島342人 三の宮303人 札幌392人 東京東331人 東京南327人 那覇382人

伝道部発行“BRANCH PROGRESS REPORT”から